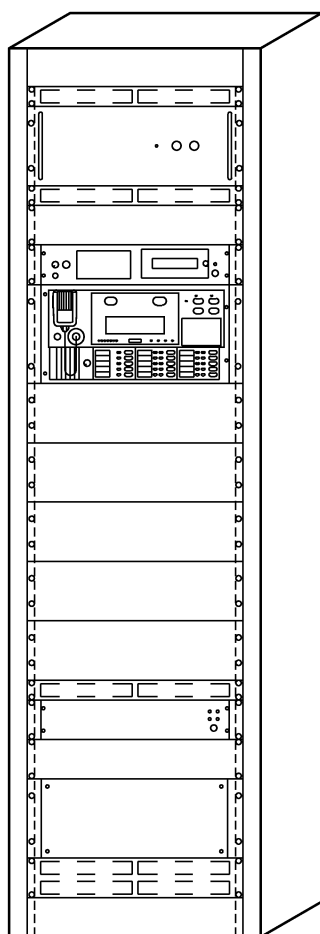


キャビネットラック型非常用放送設備

型名 FS-971



このたびは、キャビネットラック型非常用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

このキャビネットラック型非常用放送設備は、ご要望に応じて必要な機能を備えられるように、パネルユニット式になっています。

この取扱説明書は、標準セットを基準として作成しています。システムにより組み込まれる機器が異なるため、お買い上げいただきました機器はこの取扱説明書に記載されている機器の外観や内容と異なる場合があります。この取扱説明書に記載されていない機器の取り扱いについては、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

保守契約のすすめ

- 非常用放送設備の保守点検は消防法で義務づけられています。そこで、自ら点検できないお客様に代って専門技術者が契約によって定期点検を行います。
- 保守契約は設置時に納入業者にお申しつけください。すでに設置済みであるにもかかわらず契約されていないお客様はお急ぎください。
- 保守契約料金は設備とは別に計上してください。

目次

安全上のご注意	4
ニカド電池のリサイクルについて	5
使用上のご注意	6
ニカド電池の交換について	6
付属説明書の構成	7
外観図	
キャビネットラックがCR-413の場合	8
キャビネットラックがCR-273の場合	9
各部の名称とはたらき	
非常業務兼用操作パネル EP-0510	10
プリアンプパネル PP-025C	13
非常電源パネル DS-029	14
非常放送の操作のあらまし	
非常放送の3つの起動方法	15
3段階の音声メッセージ	15
非常放送の動作モード	16
火災放送移行タイマと一斉移行タイマ	18
非常放送の操作手順のまとめ	19
非常放送の操作の詳細	
自火報感知器起動による非常放送	22
非常電話／発信機起動による非常放送	24
手動による非常放送	26
音声メッセージの一覧	29

業務放送のしかた

共通の操作	31
マイクロホンによる案内放送	33
業務グループ放送について	34
本体BGM放送について	35
業務一斉放送について	36

業務停電・緊急放送のしかた

マイクロホンによる業務停電放送	37
演奏機器による業務停電放送	37
記名カードの使いかた	38

日常点検

手動点検	39
自動点検	40

総合点検	42
------------	----

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号



分解禁止



禁止

行為を強制する記号



強制



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源ブレーカーを遮断して販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



強制

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

火災・感電の原因となります。



禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容
および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



禁 止

製品の上に乗らない

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



禁 止

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



強 制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁 止

ニカド電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。

守らないと、電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱をしたり、火の中に入れたりしない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 指定した電池を使用する。
- (＋)と(－)に注意し、表示どおり正しく入れる。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。



強 制

ニカド電池のリサイクルについて



ニカド電池のリサイクルにご協力ください

本機にはニカド電池を使用しています。

ニカド電池はリサイクルが可能な、貴重な資源です。

ニカド電池の交換および使用済み製品の廃棄に際しては、ニカド電池を取り出し、リサイクルへご協力ください。

使用済みのニカド電池は、捨てないで、お買い上げ店または当社営業所へ返却してください。

使用上のご注意

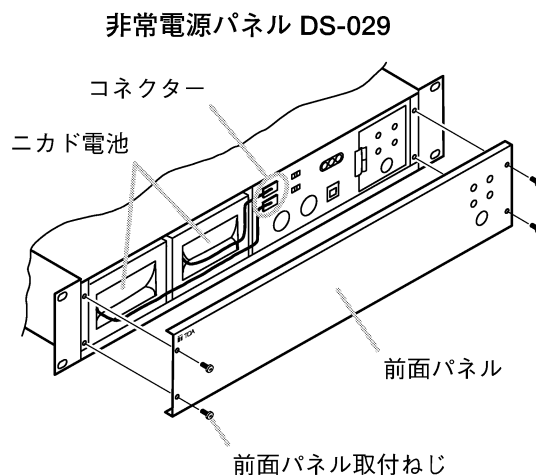
- 取付け工事は販売店におまかせください。
本機の移動や別売ユニットの工事は販売店にお申しつけください。
- 汚れは柔らかい布で軽くふいてください。
シンナーやベンジン、化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色することがあります。
- 「EP-0510 非常時の操作手順書」（シート型）は本機の近くに置いてください。
使われる現場により決まっている非常放送のモードに応じた操作手順書（シート型）をよく見える所に置いてください。

ニカド電池の交換について

⚠ 注意

- ニカド電池を、ショート・分解・加熱・火の中に入れるなどしないでください。
- 取り出したニカド電池は、ショート防止のために、端子に絶縁テープを貼るなどの対策を行ってください。
- 乾電池など、ニカド電池以外の電池を混入しないでください。
- ニカド電池を交換するときは、下表に指定したものをご使用ください。

ニカド電池	蓄電池容量
NDC-2435	3.5 Ah
NDC-2460	6 Ah



- 1 蓄電池のコネクターを取り外します。
- 2 蓄電池収納スペースから蓄電池を取り外します。

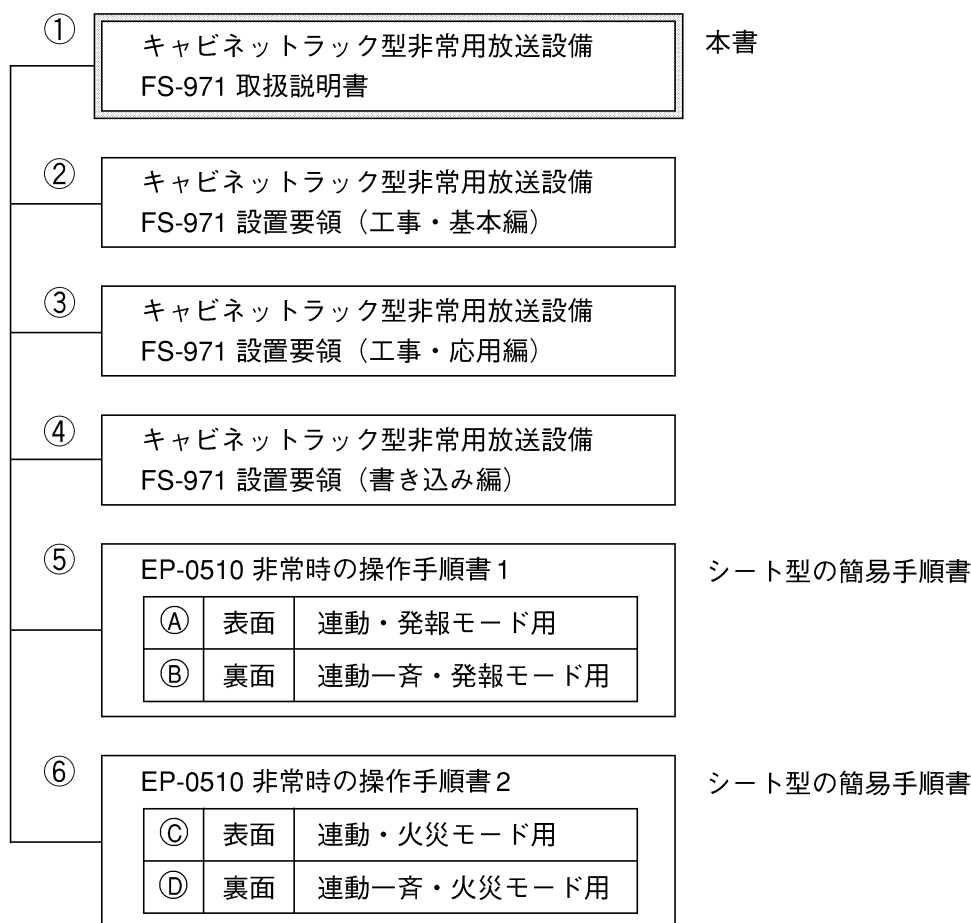


ニカド電池のリサイクルにご協力ください

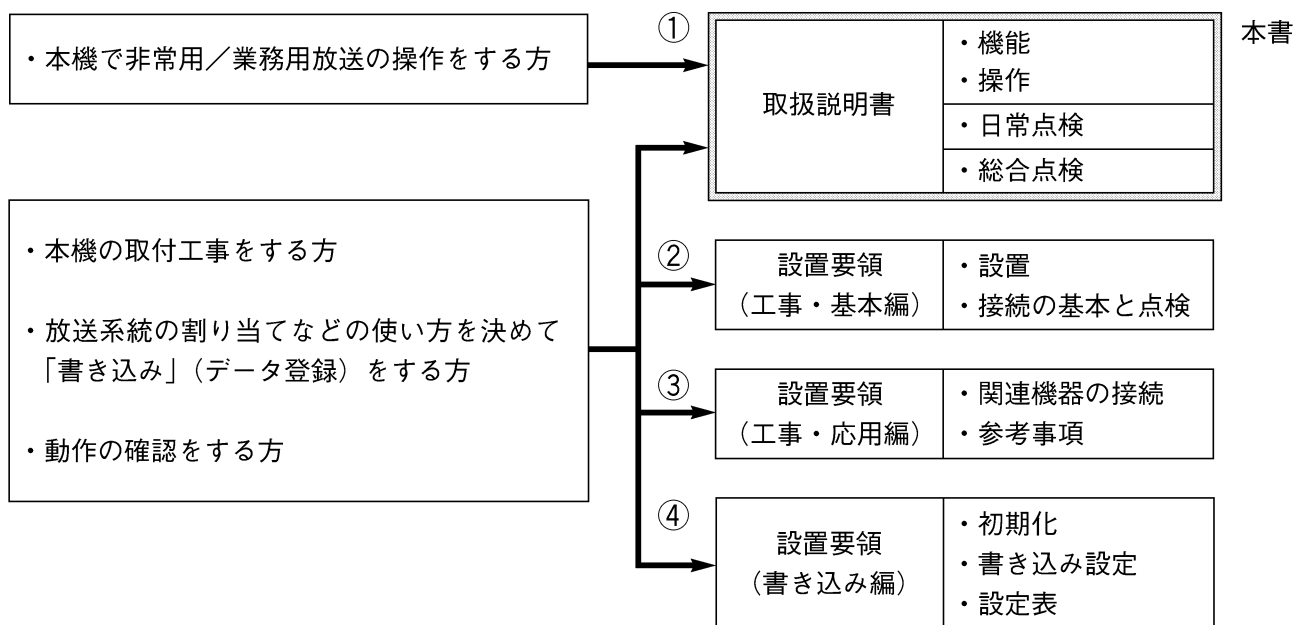
使用済みのニカド電池は、捨てないで、お買い上げ店または当社営業所へ返却してください。

付属説明書の構成

この機器には、次の説明書が付属しています。

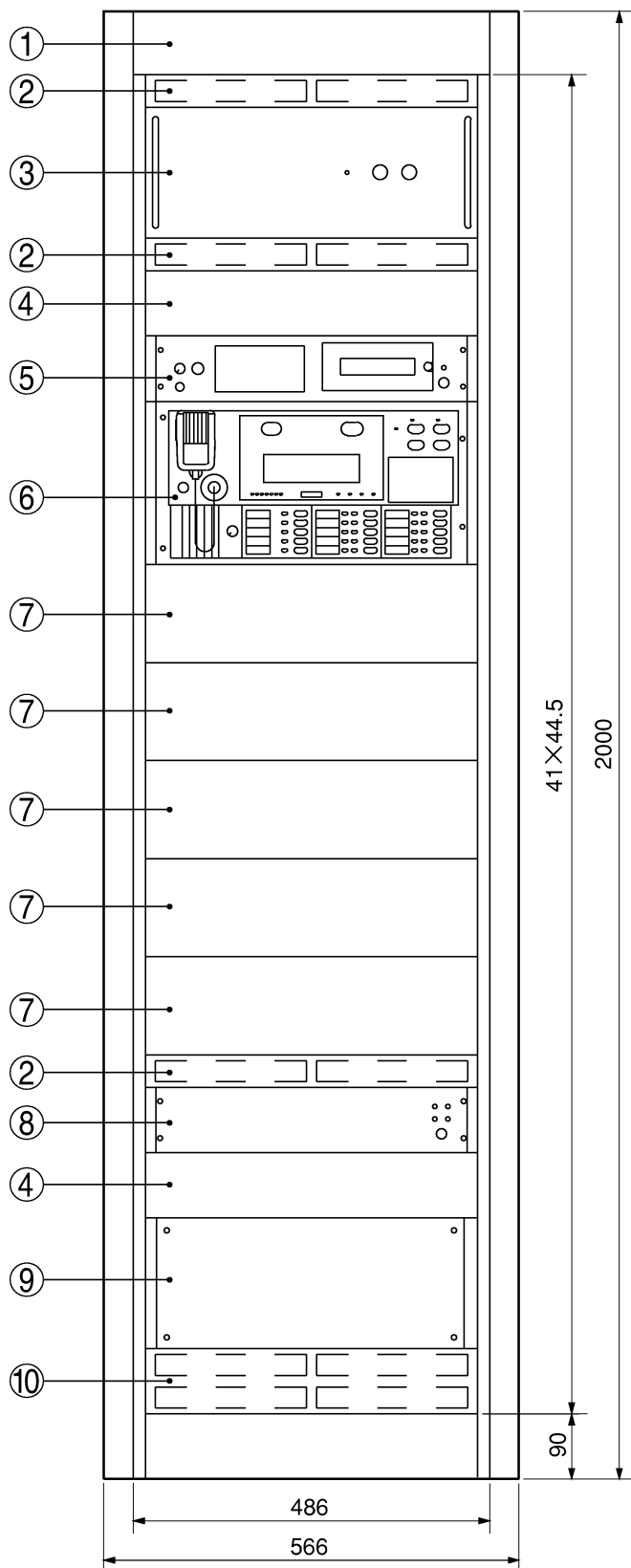


- 本機が使われる建物により、決定済みの非常放送モードを ⑤ ⑥ の手順書の ① ② ③ ④ から選んでお読みください。（① がいちばん基本的なモードです。）
- お客様の目的により必要な説明書をお読みください。



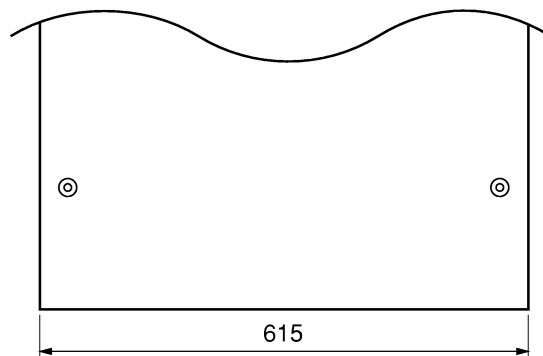
外観図

■ キャビネットラックがCR-413の場合

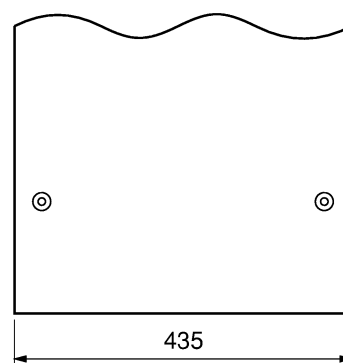


機器構成 (図のセット例は、360 W 10局)

- | | |
|----------------|----------|
| ① キャビネットラック | CR-413 |
| ② パーフォレイテッドパネル | PF-013B |
| ③ パワーアンプパネル | PA-3640B |
| ④ ブランクパネル | BK-023B |
| ⑤ プリアンプパネル | PP-025C |
| ⑥ 非常業務兼用操作パネル | EP-0510 |
| ⑦ ブランクパネル | BK-033B |
| ⑧ 非常電源パネル | DS-029 |
| ⑨ ジャンクションパネル | JP-0410 |
| ⑩ パーフォレイテッドパネル | PF-023B |



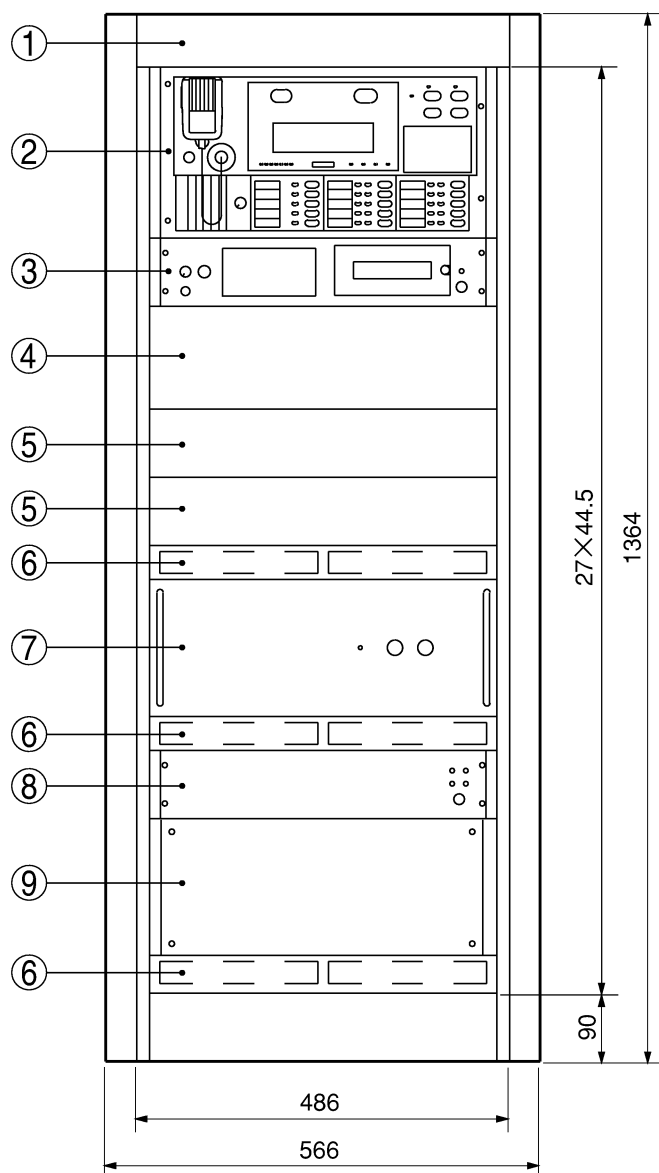
CR-413-6 側面図



CR-413 側面図

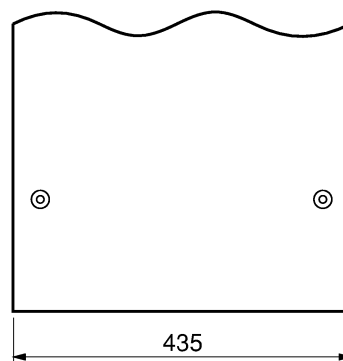
単位：mm

■ キャビネットラックが CR-273 の場合



機器構成 (図のセット例は、360 W 10 局)

① キャビネットラック	CR-273
② 非常業務兼用操作パネル	EP-0510
③ プリアンプパネル	PP-025C
④ ブランクパネル	BK-033B
⑤ ブランクパネル	BK-023B
⑥ パーフォレイテッドパネル	PF-013B
⑦ パワーアンプパネル	PA-3640B
⑧ 非常電源パネル	DS-029
⑨ ジャンクションパネル	JP-0410

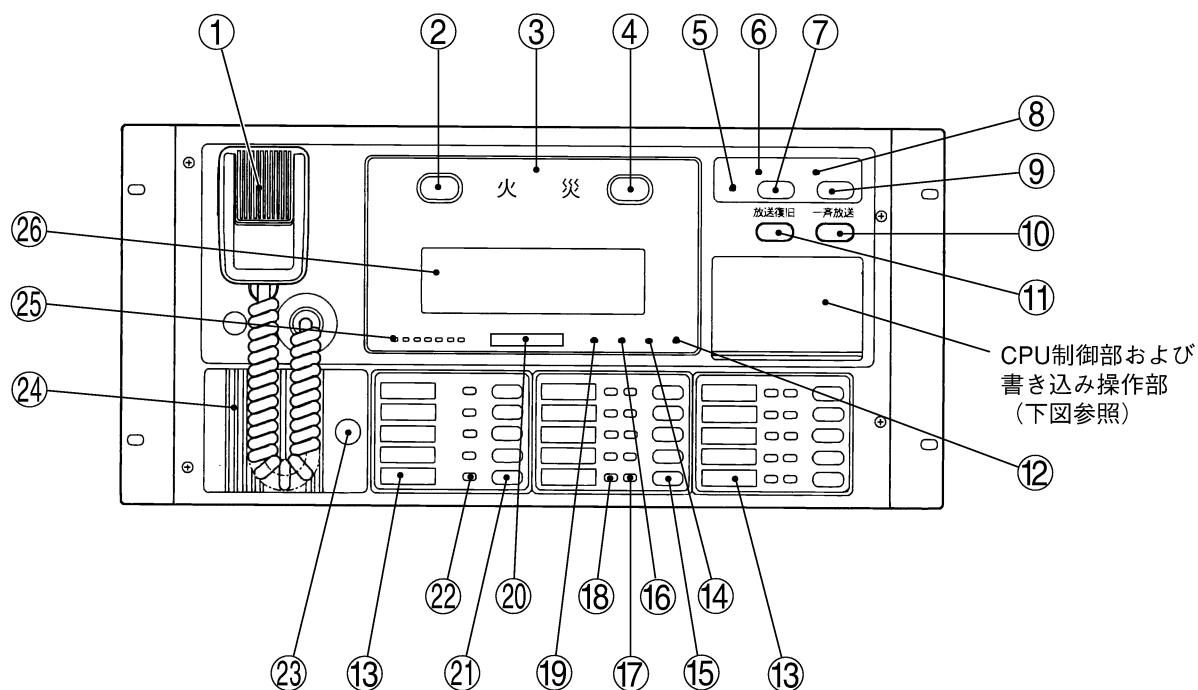


CR-273 側面図

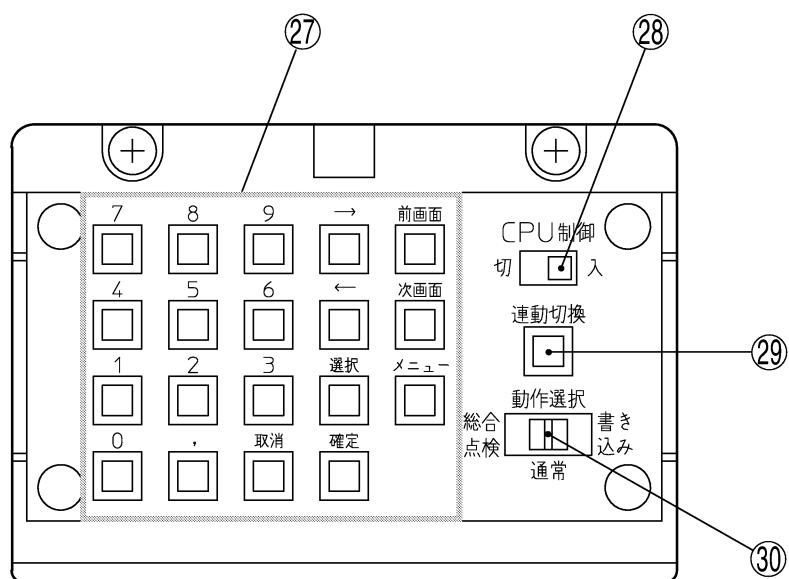
単位：mm

各部の名称とはたらき

■ 非常業務兼用操作パネル EP-0510



● EP-0510 CPU 制御部および書き込み操作部



- ① **非常・業務兼用マイク**
マイクのトークスイッチを押しながらマイク放送をします。非常時はマイクによる放送が最優先となります。
- ② **非常復旧スイッチ**
非常状態が解除されたことが確認できたときに、感知器／非常電話／発信機を復旧させた後、押します。
- ③ **火災灯**
自火報（自動火災報知設備）の感知器または非常電話または発信機より起動がかかると自動的に点灯します。
また、手動で非常起動スイッチを押したときに点灯します。感知器発報放送中、火災放送中、非火災放送中は点灯したままで、感知器／非常電話／発信機を復旧させた後に非常復旧スイッチを押すと消灯します。
- ④ **非常起動スイッチ**
手動で非常放送を起動させるとき、また手動で感知器発報放送から火災放送へ移行させるときに押します。このスイッチを押すときは、保護カバーを突きやぶり押します。
- ⑤ **発報放送表示灯**
感知器発報放送されていることを以下のように示す表示灯です。
点滅時：感知器発報放送の前後
点灯時：感知器発報放送中
- ⑥ **火災放送表示灯**
火災放送されていることを、以下のように示す表示灯です。
点滅時：火災放送の後
点灯時：火災放送中
- ⑦ **火災放送スイッチ**
火災が確認されて、火災放送を起動するときに押します。
- ⑧ **非火災放送表示灯**
非火災報放送されていることを、以下のように示す表示灯です。
点滅時：非火災報放送の後
点灯時：非火災報放送中
- ⑨ **非火災放送スイッチ**
非火災であることが確認されて、非火災報放送を起動するときに押します。
- ⑩ **一斉放送スイッチ**
非常または業務時、全区域一斉に放送するときに押します。
- ⑪ **放送復旧スイッチ**
非常または業務時の放送を復旧するときに押します。
- ⑫ **主電源表示灯**
主電源での動作時に点灯します。
※ 非常電源DC24Vでの使用中は消灯します。
- ⑬ **記名カード**
(1) 放送階選択スイッチの名称を記入します。
(2) グループ選択スイッチの名称を記入します。
- ⑭ **CPU 異常表示灯**
コンピュータ回路に異常が発生すると、点灯または点滅します。
- ⑮ **放送階選択スイッチ**
非常または業務時、階別・系統別に放送するときに押します。業務時は放送終了後、もう一度押すと復旧します。
- ⑯ **自火報連動モード表示灯**
自火報（自動火災報知設備）などとの連動モードを設定したとき点灯します。
- ⑰ **階別作動／短絡表示灯**
放送中またはスピーカ回線短絡の状態を以下のように表示します。
緑色点灯時：点灯している放送階への放送中であることを示します。
赤色点灯時：点灯している放送階のスピーカ回線が短絡していることを示しています。
赤色点灯している階のスピーカ回線は自動的に切り離され、その階への放送はできません。
- ⑱ **出火階表示灯**
自火報（自動火災報知設備）から起動がかかると点灯し、出火階を表示します。
- ⑲ **自火報連動一斉モード表示灯**
自火報（自動火災報知設備）などとの連動一斉モードを設定したとき点灯します。

⑳ 発報連動停止表示灯

発報連動停止モードを設定したとき点灯します。発報連動停止のときは感知器起動による感知器発報放送が行われません。

感知器連動停止時は、非常業務兼用操作パネル EP-0510 より火災音信号が鳴動しますので、迅速な原因調査と適切な放送を行う必要があります。

ご注意 このモードの設定に関しては所轄の消防署の認可が必要ですので、当社営業所までご相談ください。

㉑ グループ選択スイッチ

業務時、グループ指定した場所に放送するときに押します。もう一度押すと、復旧します。

㉒ グループ作動表示灯

業務時、点灯しているグループの放送中であることを示します。

㉓ モニタ用音量調節器

モニタスピーカの音量を調節します。右へ回すほど音量が大きくなります。

※ 非常放送時は、モニタ用音量調節器の位置に関係なく一定音量になり調節はできません。

㉔ 放送モニタ用スピーカ

各放送時のモニタの他、非常放送時の操作指示または異常時の警告音を出力します。

※ 非常時および業務時に、非常・業務用マイクのトークスイッチを押すとハウリング防止のためモニタ音の出力は停止します。

㉕ 放送出力レベル計

放送出力レベルを表示します。

※ なるべく緑色の範囲で使用してください。

㉖ LCD パネル

非常時に必要な操作ガイドの文字による表示、業務時の状態の文字による表示、および各種の異常状態の文字による表示を行います。

㉗ 書き込みキー

書き込み時に使用するキーです。

㉘ CPU 制御 入／切スイッチ

通常は、CPU 制御「入」の位置にします。

※ CPU 異常で CPU 制御不可能となったとき CPU 制御「切」にすると、非常・業務兼用マイクによる一斉放送ができます。

㉙ 連動切換スイッチ

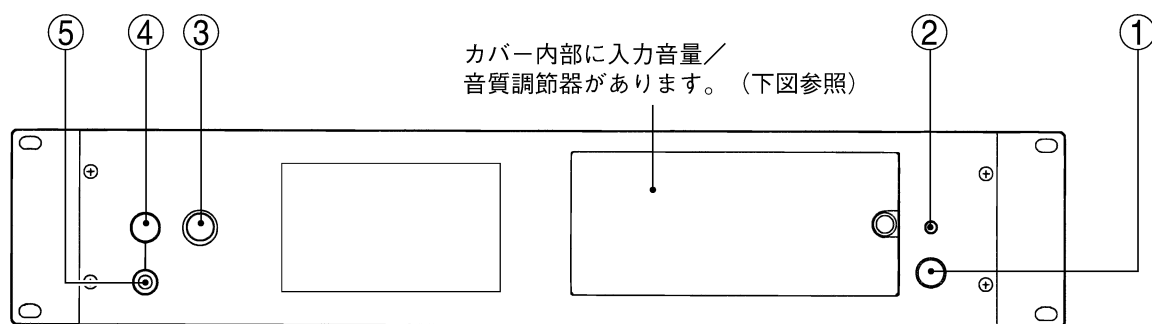
自火報連動モードと自火報連動一斉モードとの切り換えをするときに押します。

押すごとに交互にモードが切り換わります。

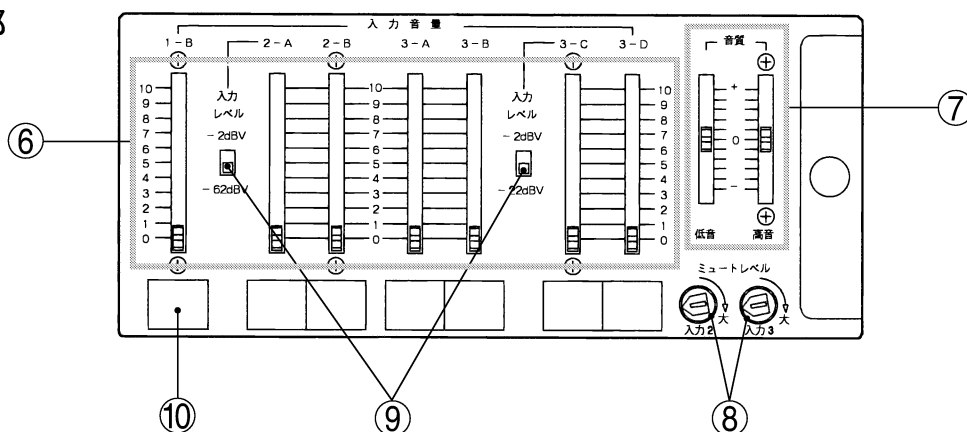
㉚ 動作選択スイッチ

用途に応じてスイッチの位置を設定します。通常動作時は「通常」の位置に設定してください。

■ プリアンプパネル PP-025C



● カバー内部



① 電源スイッチ

押すと電源が入り、再度押すと電源が切れます。非常／業務兼用システムとして設置されている場合は非常業務兼用操作パネル EP-0510 の放送階選択スイッチを押すと自動的に電源が入ります。

② 電源表示灯

電源が入っているとき、点灯します。

③ チャイムスイッチ

押すとチャイム放送ができます。チャイム音は入力1に接続されています。

④ マイク (ライン) 音量調節器

マイクによる放送音量を調節します。右に回すと音量が大きくなります。

⑤ マイク (ライン) 入力ジャック

マイクのホーンプラグを差し込みます。

※ マイク (ライン) 音量調節器④およびマイク (ライン) 入力ジャック⑤は、入力1-A用です。この入力1-Aは、後面部の同じ入力1-Aに対して優先の機能を持っています。入力ジャック⑤にホーンプラグを差し込むことにより、後面の入力1-Aの入力が切れます。また、フロントパネルを外すと入力レベル切換スイッチがあり、そのスイッチによりライン入力 (-2 dBV) に切り換えることができます。

⑥ 入力音量調節器

各入力 (1-B, 2-A, B, 3-A～D) の音量を調節します。入力2-A, 3-Cには入力レベル切換スイッチがあります。

※ 優先は、入力1 > 2 > 3の順になっています。

⑦ 音質調節器

放送音質を調節します。

⑧ ミュートレベル調節器

優先順位の高いものの放送が入ったときのミュートレベルを調節します。

⑨ 入力レベル切換スイッチ

入力2-A, 3-Cの入力レベルの切り換えをします。

入力2-A -2 dBV/-62 dBV

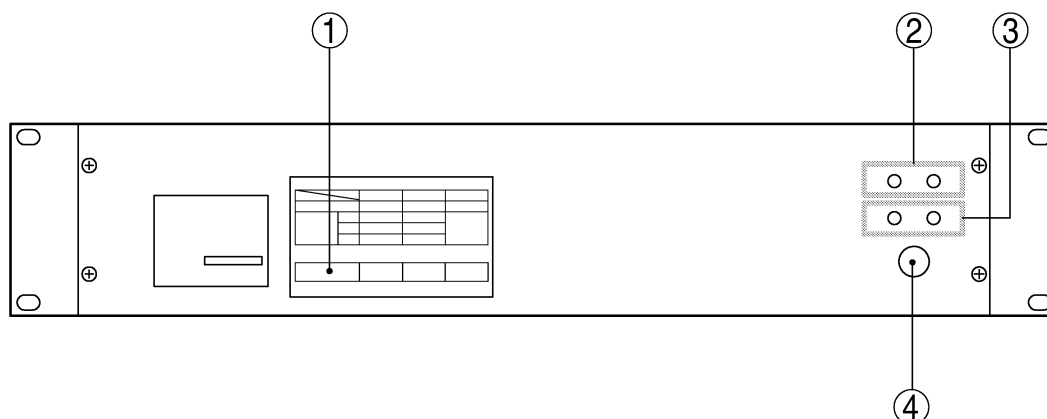
入力3-C -2 dBV/-22 dBV

※ ⑧、⑨のツマミは、再調節／設定のとき以外には触れないようにしてください。

⑩ 入力表示ラベル貼付部

付属の入力ラベルを貼り付けてください。

■ 非常電源パネル DS-029



① 蓄電池交換日記入ラベル

蓄電池の使用開始日、交換日を記入します。

※ 蓄電池の寿命は約4年ですが、使用条件により異なります。非常時に機器を正常に動作させるために、必ず4年以内に交換してください。

② 充電中表示灯

蓄電池が充電状態にあるときに点灯します。

※ 蓄電池が接続されていないと点灯しません。

③ 非常電源表示灯

蓄電池の状態を以下のように表示します。

点灯時：十分に充電されています。

点滅時：十分に充電されていません。

消灯時：充電されていません。

この表示灯は点検ボタンを押したとき、および停電時に常用電源から非常電源に切り換わったときに機能します。

④ 蓄電池点検ボタン

蓄電池の状態を点検するときに押します。

※ 点検は毎日実施してください。

※ 点検ボタンは10秒以上押さないでください。

点検に関しては「日常点検」(P. 39)をお読みください。

蓄電池の交換およびリサイクルについては、「ニカド電池の交換について」(P. 6)、「ニカド電池のリサイクルについて」(P. 5)をお読みください。

非常放送の操作のあらまし

(はじめて非常用放送設備を操作される方に)

次の「非常放送の操作手順のまとめ」(P. 19～21)とあわせてお読みください。
詳しい操作手順については、「非常放送の操作の詳細」(P. 22)をお読みください。

■ 非常放送の3つの起動方法

非常放送を起動させるには、次の3つの方法があります。(P. 19～28)

① 自火報感知器起動	自動火災報知設備の感知器が作動すると、その階の出火階表示灯が点灯し、自動的に非常放送が起動します。出火階(感知器が作動した階)とその直上階などのスピーカに放送されます。(連動モードのとき)
② 非常電話/発信機起動	非常電話の受話器を取り上げるか発信機が作動すると、その階の出火階表示灯が点灯し、自動的に非常放送が起動します。出火階(非常電話/発信機が作動した階)とその直上階などのスピーカに放送されます。(連動モードのとき)
③ 手動起動	操作者の判断で「非常起動スイッチ」を押し、非常放送を起動させます。「放送階選択スイッチ」で選んだ階のスピーカに放送されます。

■ 3段階の音声メッセージ

マイクで放送しなくても、警報音と音声メッセージによる次の3段階の自動放送が行なわれます。(P. 29)

① 感知器発報放送	感知器などが作動し、火災の発生を確認中であることを知らせます。
② 火災放送	火災の発生を知らせます。
③ 非火災放送	確認の結果、火災の発生がなかったことを知らせます。

■ 非常放送の動作モード

動作モードは、機器の設置のときに設定済みです。次の①、②、③の各項目について、決められたモードの説明をお読みください。付属の「EP-0510 非常時の操作手順書 1、2」（2枚、各両面の4モードのシート）は、決められたモードの面をお読みください。

● 動作モードについて

① 「連動」／「連動一斉」モード

外部から非常放送の起動がかかったとき（自火報感知器または非常電話／発信機*1が起動したとき）の放送階（放送エリア）がモードによって異なります。（モードは設定済みですので、さわらないでください。）

※ 手動起動の場合は、「連動」／「連動一斉」モードの設定に関係なく、選択した階のみに非常放送がされます。

「連動」モード (基本モード*2)	出火階（起動のあった階）とその直上階に非常放送がされます。 (出火階が1階または地下の階のときは、1階と地下すべての階が追加されます。それらを含めて直上階など、連動階ともいいます。)
「連動一斉」モード	すべての階に非常放送がされます。

② 「発報」／「火災」モード

手動起動と非常電話／発信機*1起動のとき、すぐに火災放送がされるかどうかモードによって異なります。
(参照 P. 21)

※ 自火報感知器が起動したときのモードとは異なります。(参照 ③ 「発報連動」／「発報連動停止」モード)

※ 自火報感知器起動の場合は、「発報」／「火災」モードの設定に関係なく、「発報連動」／「発報連動停止」モードの設定により動作が決定されます。

「発報」モード (基本モード*2)	起動がかかると、まず感知器発報放送がされ、その後に火災放送になります。
「火災」モード	起動がかかると、感知器発報放送なしに、すぐ火災放送になります。

③ 「発報連動」／「発報連動停止」モード

自火報感知器が起動したとき、感知器発報放送（発報連動）の有無がモードによって異なります。(参照 P. 21)

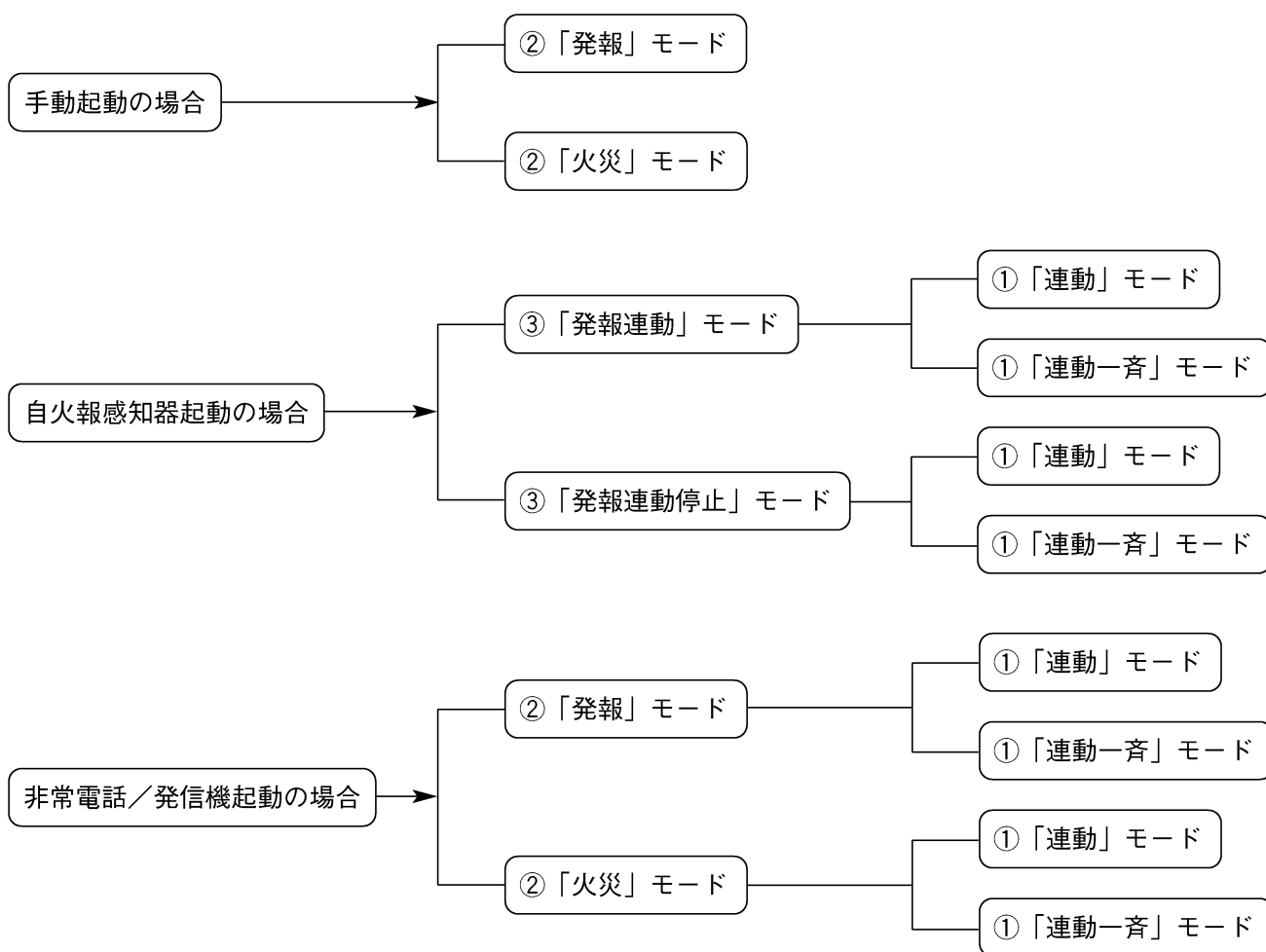
※ 非常電話／発信機起動の場合は、「発報連動」／「発報連動停止」モードの設定に関係なく、「発報」／「火災」モードの設定により動作が決定されます。

「発報連動」モード (基本モード*2)	起動がかかると、まず感知器発報放送がされ、次の段階で火災放送になります。
「発報連動停止」モード	起動がかかっても感知器発報放送はされません。次の段階で火災放送になります。 操作する人に対して前面操作部のモニタスピーカから「火災音信号」と現場の確認と操作を指示する「音声メッセージ」が出ます。 (このモードで使用するには、所轄の消防署の承認が必要です。)

*1 発信機 : ボタンを押すことにより、自動火災報知設備を起動させる装置。表示灯も付いています。

*2 基本モード : 本機の出荷時の設定モードです。建物の多くがこのモードで使われています。

● 動作モードと起動方法の関係



■ 火災放送移行タイマと一斉移行タイマ

本機には避難時の安全性を確保するため、段階的な非常放送ができるよう、内部に次の2つのタイマを内蔵しています。

- ① 火災放送移行タイマ
- ② 一斉移行タイマ

それぞれのタイマは、建物の規模や構造に合わせて機器の設置時に設定されています。動作の内容については、「非常放送の操作手順のまとめ」(P. 19)をお読みください。

① 火災放送移行タイマ

このタイマは、

- 自火報感知器起動時
- 手動起動時（発報／火災が発報モードのとき）

において発報放送開始時または火災音信号鳴動開始時にスタートし、設定された時間が経過すると自動的に火災放送を開始させるためのものです。

ただし、火災放送移行タイマ作動中に非火災放送をした場合は、タイマは停止して火災放送には移行しません。

② 一斉移行タイマ

このタイマは、火災放送開始時または火災放送移行タイマのタイムアップ時にスタートし、設定された時間が経過すると自動的に一斉火災放送を開始させるためのものです。

タイマ機能を「切」にすることもできます。

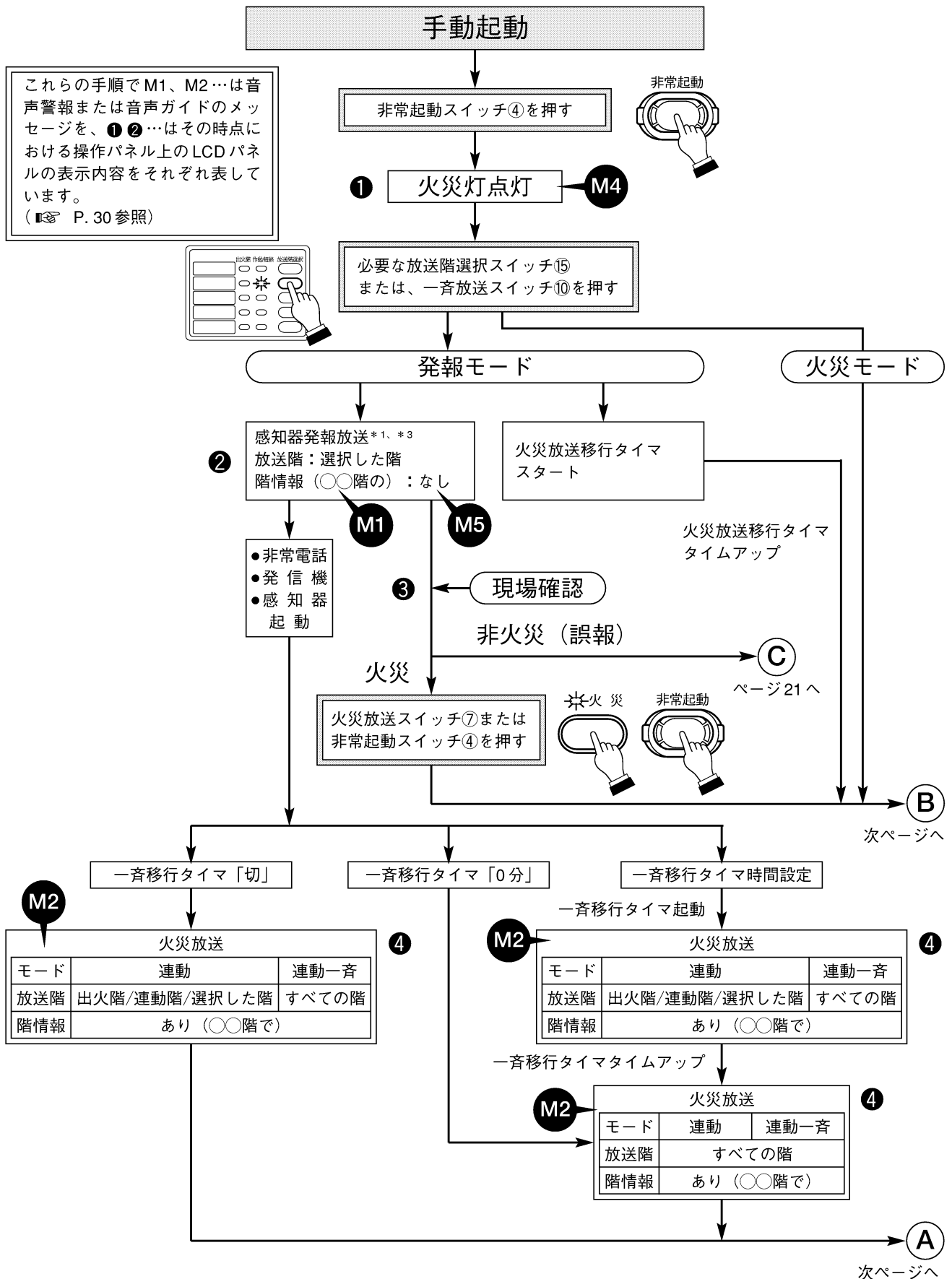
タイマ時間設定を「0分」にしたときは、すぐに一斉火災放送を開始します。

ただし、一斉移行タイマ作動中に非火災放送をした場合は、タイマは停止して一斉火災放送には移行しません。

※ 一斉移行タイマがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。
一斉放送だけになります。

ご注意
● 法律上は火災放送移行タイマの設定は、2～5分となります。
● 法律上は一斉移行タイマの設定は、切、0分、2～5分となります。
● タイマの設定および変更は所轄消防署の指導に従う必要があります。

■ 非常放送の操作手順のまとめ



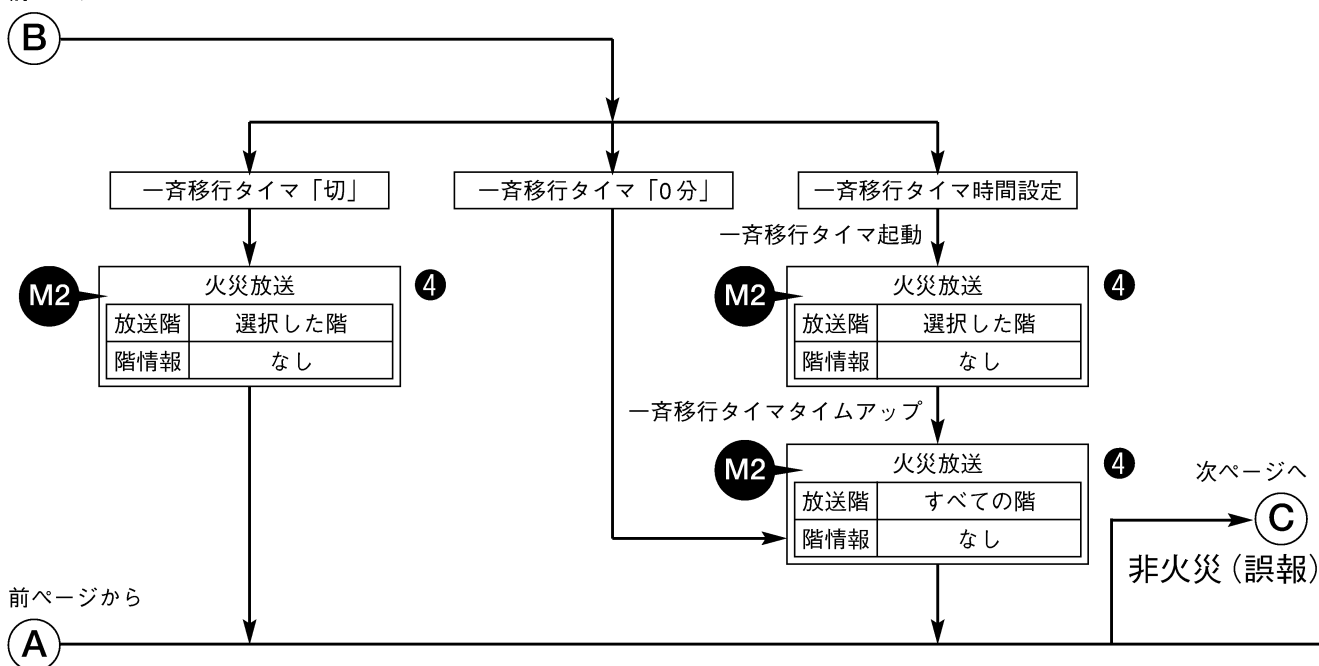
- 各スイッチ類の番号は「各部の名称とはたらき」(P. 10)の番号です。
- **M4** などは音声警報／音声ガイドメッセージの番号を示します。メッセージの内容は次のとおりです。
詳しくはP. 29をお読みください。
- **M1** **M2** **M3** は音声警報メッセージです。放送階のスピーカから放送されます。
 - M1** : 感知器発報放送
第1シグナル(パポパポパポ)＋「ただいま(〇〇階の)火災感知器が作動しました。確認しておりますので、次の放送にご注意ください。(女声)」以上の内容を2回くり返します。
 - M2** : 火災放送
第1シグナル(パポパポパポ)＋「火事です、火事です、(〇〇階で)火災が発生しました。落ち着いて避難してください。(男声)」＋第1シグナル(パポパポパポ)＋「火事です、火事です……(男声)」＋第2シグナル(フィ、フィ、フィ3回)以上の内容を継続してくり返します。
マイク放送終了後は第2シグナルだけのくり返しとなります。
 - M3** : 非火災放送
第1シグナル(パポパポパポ)＋「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。(女声)」以上の内容を2回くり返します。
- **M4** **M5** **M6** は音声ガイドメッセージです。前面操作部の放送モニタスピーカからだけ放送されます。
 - M4** : 「放送階選択スイッチを押せ。」
 - M5** : 「発報放送を起動した。現場を確認せよ。火災のときは音声警報火災スイッチを押せ。誤報のときは、音声警報非火災スイッチを押せ。」
 - M6** : 「火災信号を受信した。現場を確認せよ。火災のときは音声警報火災スイッチを押せ。誤報のときは、自火報を停止させた後、非常復旧スイッチを押せ。」

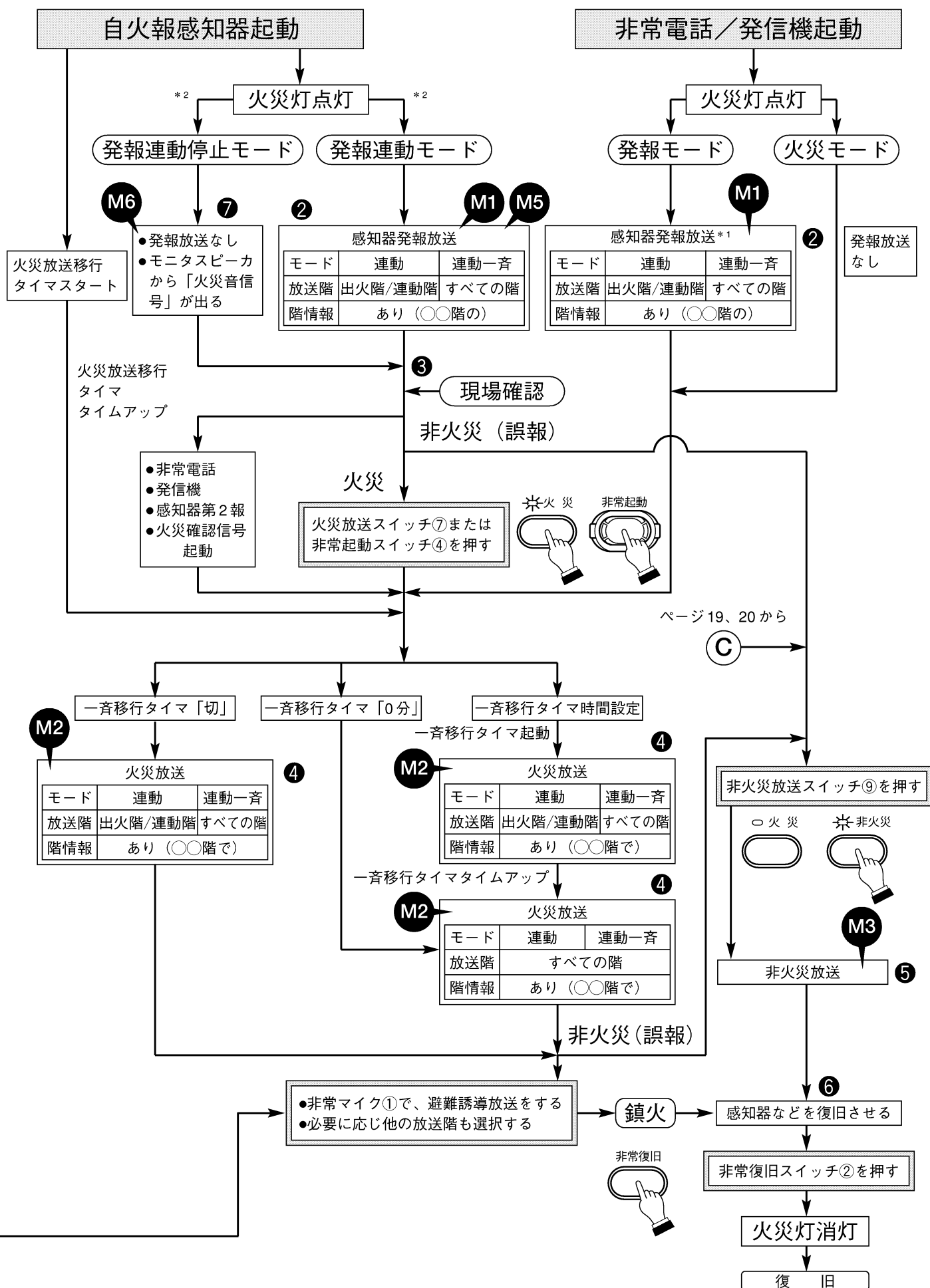
*1 「発報連動」／「発報連動停止」モード (P. 16の③) の設定は無視されます。

*2 「発報」／「火災」モード (P. 16の②) の設定は無視されます。

*3 「連動」／「連動一斉」モード (P. 16の①) の設定は無視されます。

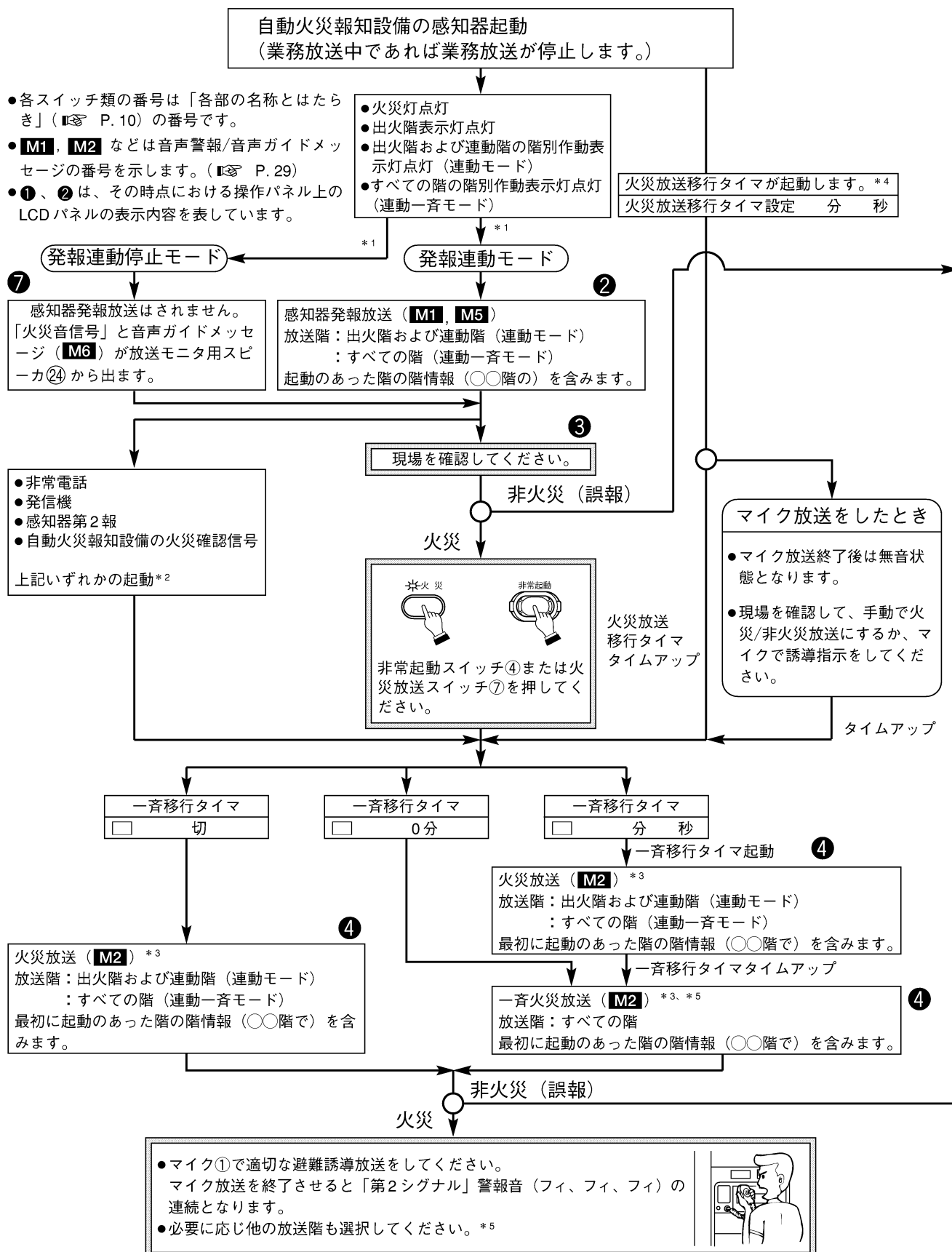
前ページから

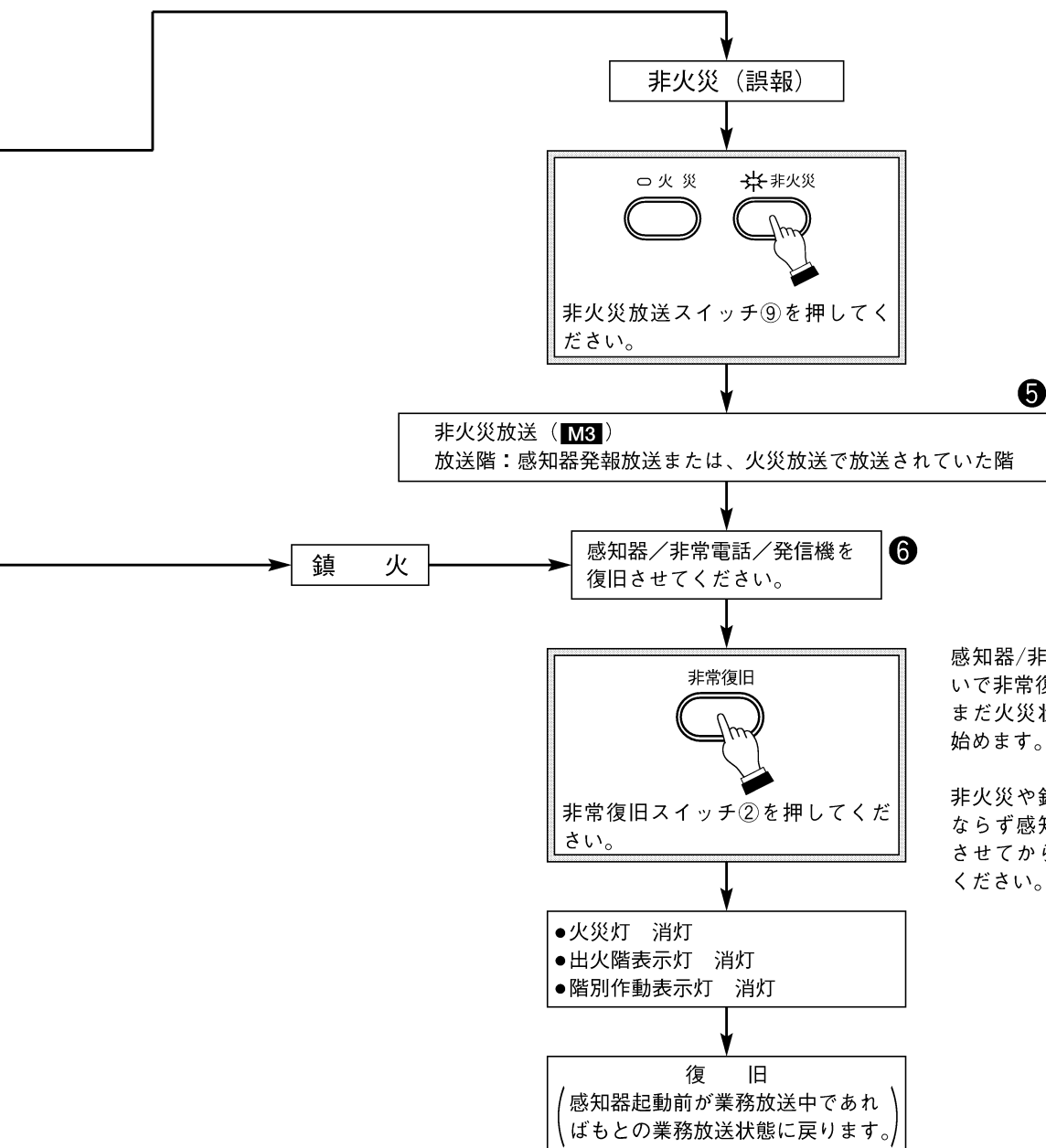




非常放送の操作の詳細

■ 自火報感知器起動による非常放送





感知器/非常電話/発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、かならず感知機/非常電話/発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

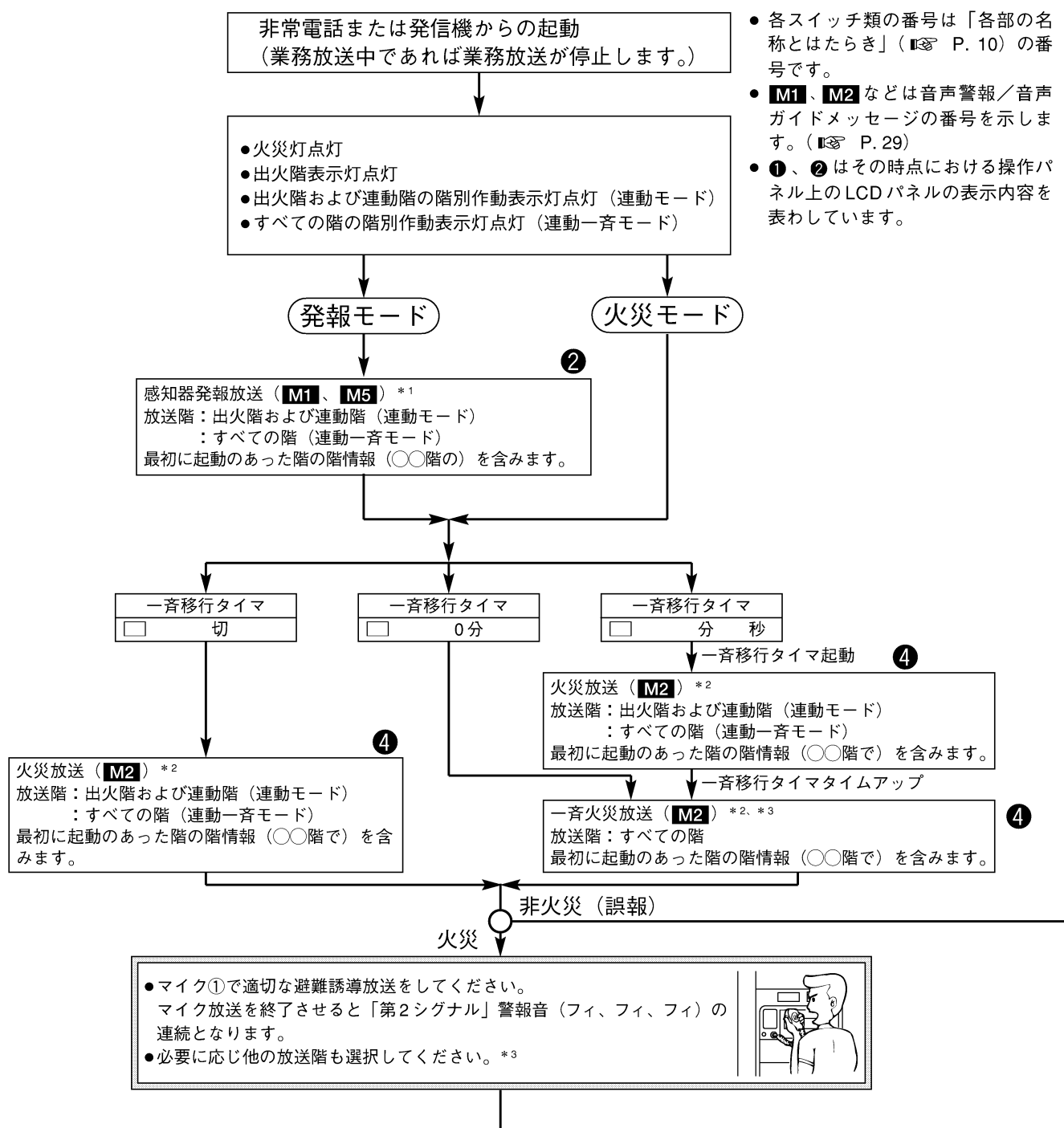
- *1 「発報」／「火災」モード（P. 16 の②）の設定は無視されます。
- *2 異なる階の感知器が同時に起動したとき、または発報放送中に別の階の感知器が起動したときは、発報放送のメッセージ終了後、すぐに火災放送になります。
- *3 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報（〇〇階で）を含んだ音声メッセージだけが放送されます。
- *4 火災放送移行タイマ作動中に放送復旧スイッチ①を押して、放送が復旧したときも火災放送移行タイマは停止せず、作動を継続します。
- *5 一斉移行タイマがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。

操作中にCPU異常表示灯が点灯または点滅したら

ドアを開けてコンピュータ制御入／切スイッチを「切」にしてください。マイクによる緊急一斉放送をすることができます。（P. 41）

■ 非常電話／発信機起動による非常放送

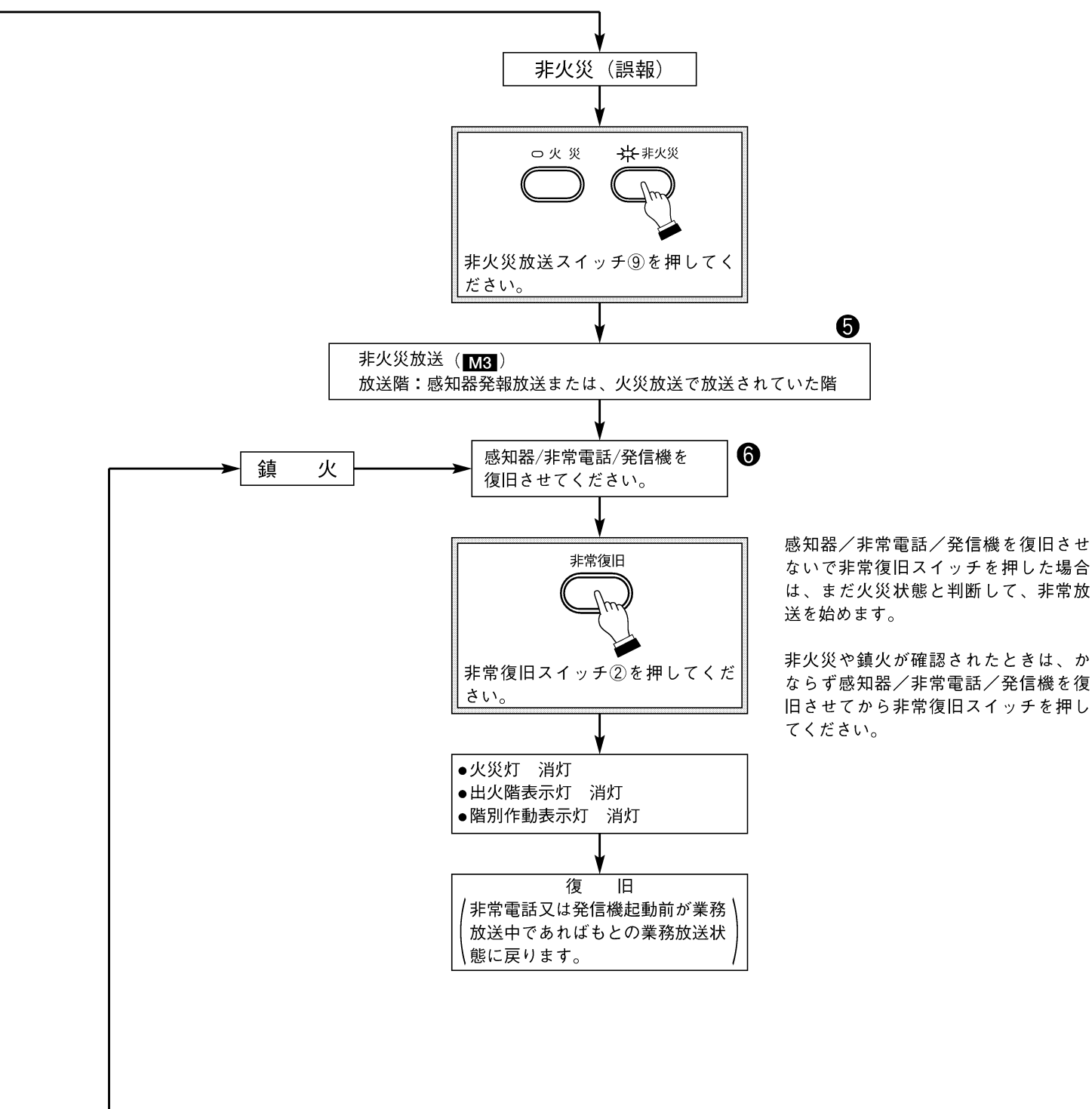


- 各スイッチ類の番号は「各部の名称とはたらき」(P. 10)の番号です。
- M1、M2などは音声警報／音声ガイドメッセージの番号を示します。(P. 29)
- ①、②はその時点における操作パネル上のLCDパネルの表示内容を表わしています。

*1「発報連動」／「発報連動停止」モード (P. 16の③)の設定は無視されます。

*2 感知器発報放送後、新たに別の階の非常電話／発信機が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報 (〇〇階で) を含んだ音声メッセージだけが放送されます。

*3 一斉移行タイマがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。



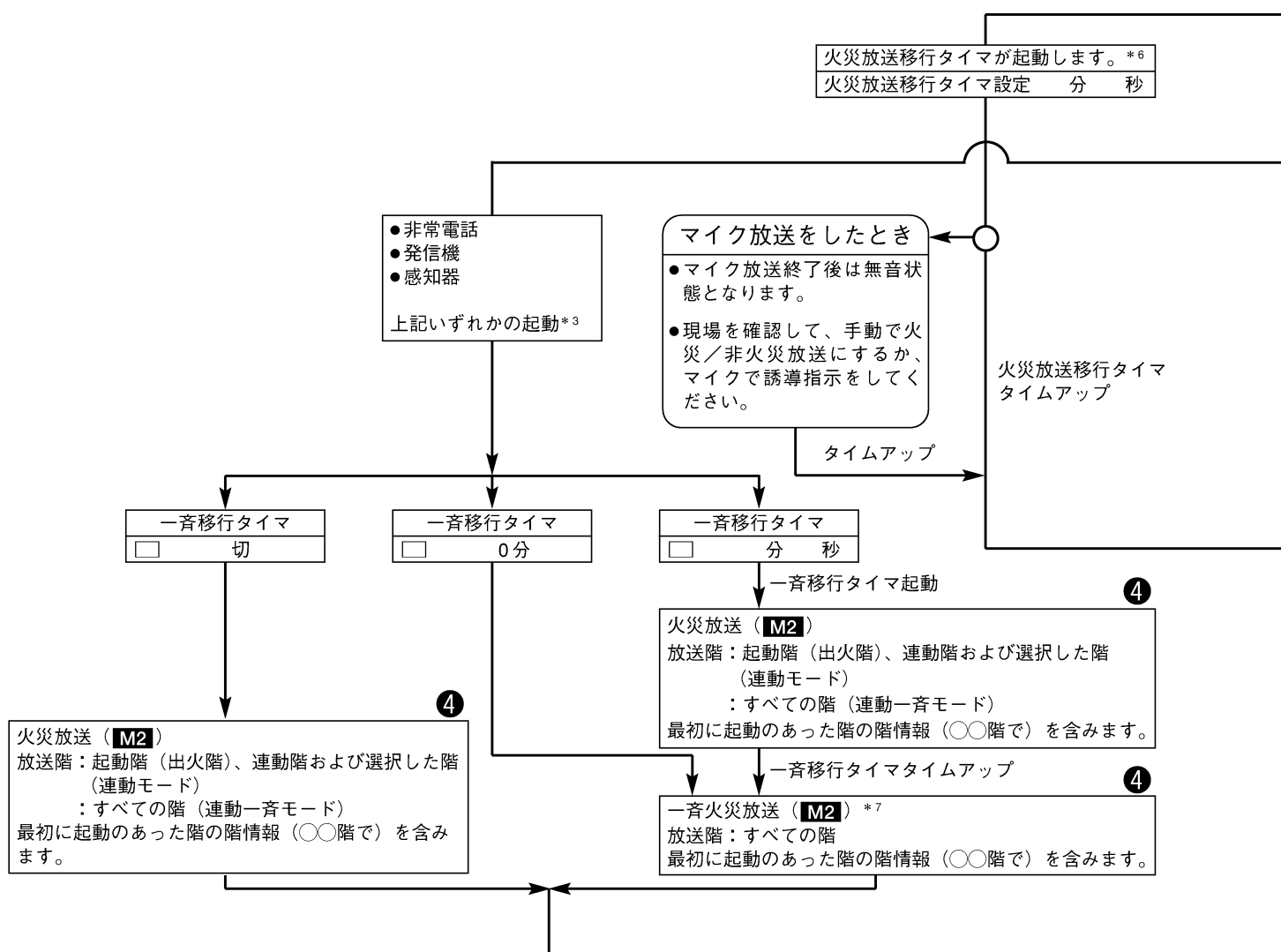
マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。

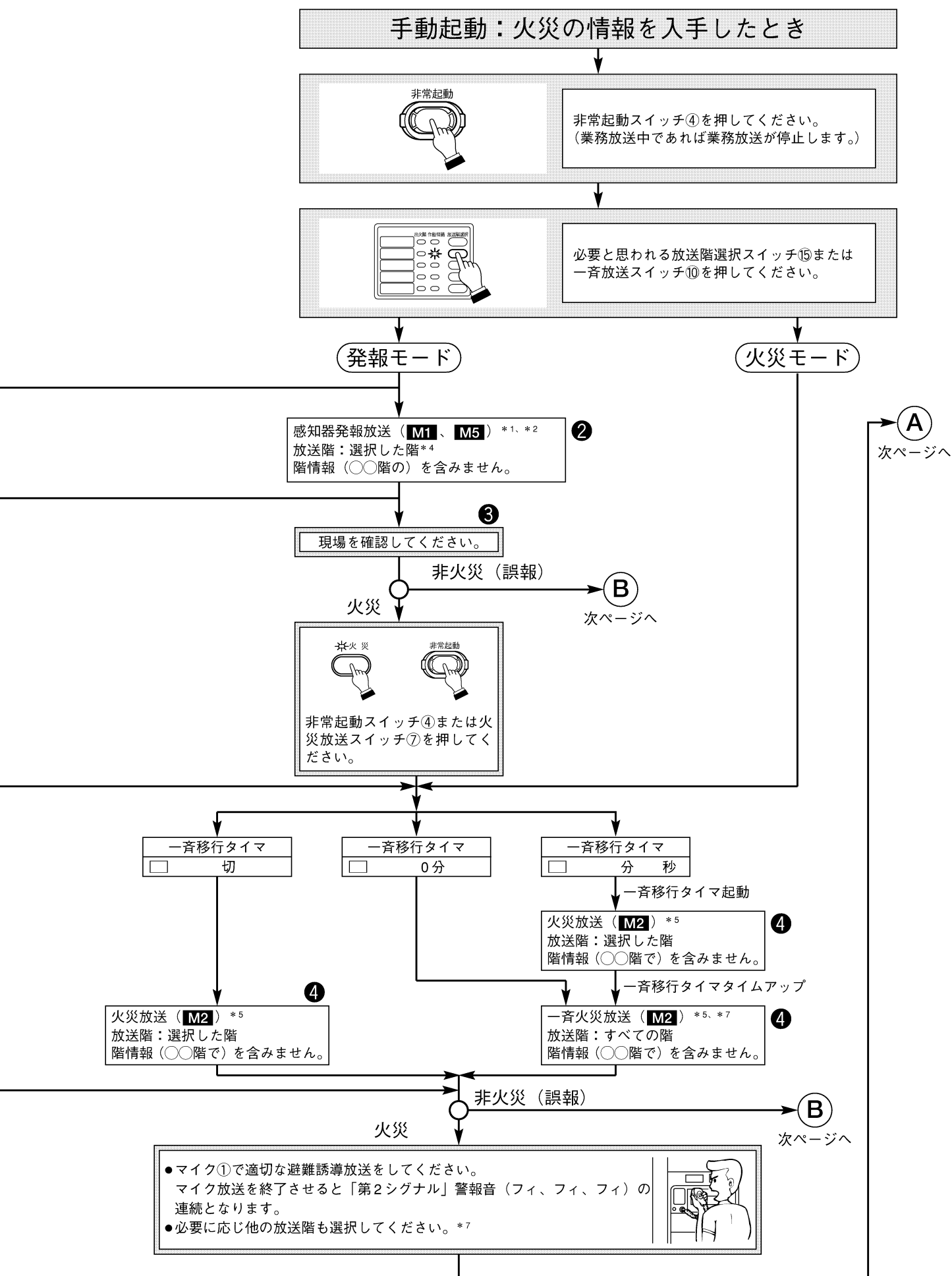
操作中にCPU異常表示灯が点灯または点滅したら

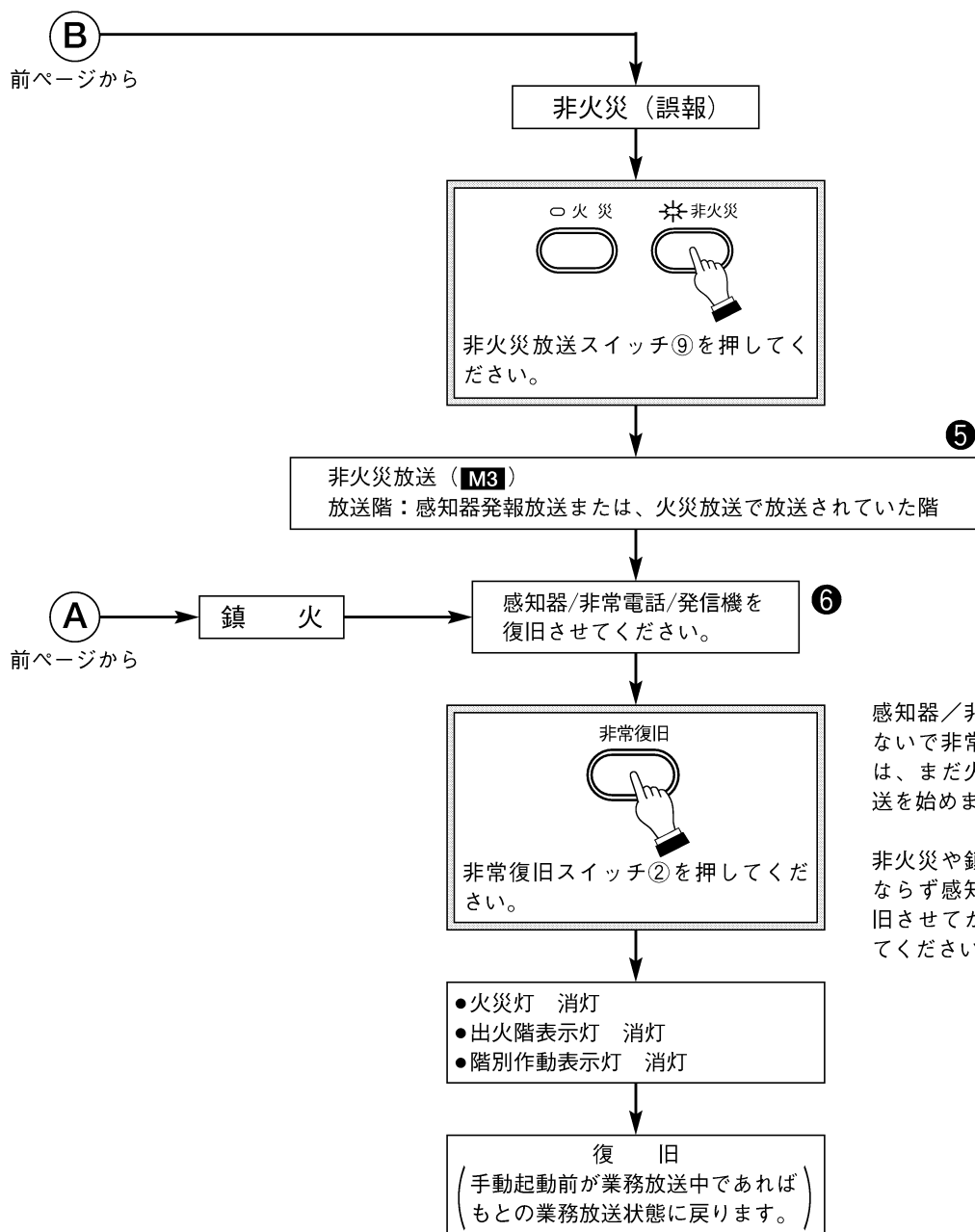
ドアを開けてコンピュータ制御入／切スイッチを「切」にしてください。マイクによる緊急一斉放送をすることができます。（P. 41）

■ 手動による非常放送

- 各スイッチ類の番号は「各部の名称とはたらき」(P. 10)の番号です。
- M1**、**M2**などは音声メッセージの番号を示します。(P. 29)
- ①、②はその時点における操作パネル上のLCDパネルの表示内容を表わしています。







感知器／非常電話／発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、かならず感知器／非常電話／発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

*1 「発報連動」／「発報連動停止」モード（P. 16の③）の設定は無視されます。

*2 「連動」／「連動一斉」モード（P. 16の①）の設定は無視されます。

*3 発報放送中に起動したときは、メッセージ終了後に火災放送になります。

*4 放送階を手動で選択した時、直上階などへは放送されません。

*5 手動起動による感知器発報放送後、新たに感知器／非常電話／発信機が起動したときは、火災放送では階情報（○○階で）を含んだ音声メッセージが放送されます。

*6 火災放送移行タイマ作動中に放送復旧スイッチ⑪を押して、放送が復旧したときも火災放送移行タイマは停止せず、作動を継続します。

*7 一斉移行タイマがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。

操作中にCPU異常表示灯が点灯または点滅したら

ドアを開けてコンピュータ制御入／切スイッチを「切」にしてください。マイクによる緊急一斉放送をすることができます。（P. 41）

■ 音声メッセージの一覧

● 音声警報メッセージ

以下のメッセージは放送階のスピーカから放送されます。

M1	感知器発報放送	第1シグナル（パポパポパポ）＋「ただいま（〇〇階の）火災感知器が作動しました。確認しておりますので、次の放送にご注意ください。（女声）」以上の内容を2回くり返します。
M2	火災放送	第1シグナル（パポパポパポ）＋「火事です、火事です、（〇〇階で）火災が発生しました。落ち着いて避難してください。（男声）」＋第1シグナル（パポパポパポ）＋「火事です、火事です……（男声）」＋第2シグナル（フィ、フィ、フィ3回）以上の内容を継続してくり返します。マイク放送終了後は第2シグナルだけのくり返しとなります。
M3	非火災放送	第1シグナル（パポパポパポ）＋「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。（女声）」以上の内容を2回くり返します。

※ 発報/火災放送の階情報

1. 手動起動による非常放送の場合は「階情報」（〇〇階の、〇〇階で）が含まれません。
2. 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報（〇〇階で）を含んだ音声メッセージだけが放送されます。

※ 音声警報メッセージが2か国語（日本語＋英語）に設定されている場合は、日本語につづいて英語のメッセージが放送されます。

感知器発報放送	Attention please. The fire alarm (on 〇〇 floor) is indicating a fire. We're now investigating the cause. Please wait for a further information.
火災放送	There is a fire (on 〇〇 floor). Please evacuate as quickly as possible.
非火災放送	Attention please. A few minutes ago, we announced there may be a fire. However, this was a false alarm. Once again, there is no fire.

● 音声ガイドメッセージ

以下のメッセージは、前面操作部の放送モニタ用スピーカからだけ放送されます。

M4	放送階選択スイッチを押せ。
M5	発報放送を起動した。現場を確認せよ。火災のときは音声警報火災スイッチを押せ。誤報のときは、音声警報非火災スイッチを押せ。
M6	火災信号を受信した。現場を確認せよ。火災のときは音声警報火災スイッチを押せ。誤報のときは、自火報を停止させた後、非常復旧スイッチを押せ。

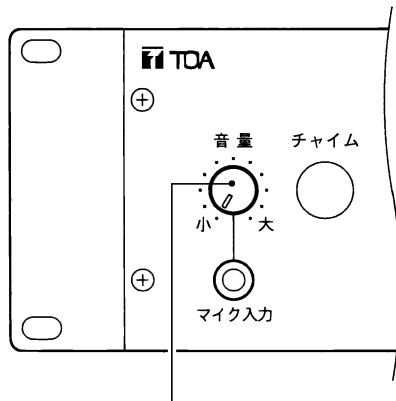
● 非常業務兼用操作パネル EP-0510 の液晶画面表示

- ① ◎発報放送階選択
放送階選択スイッチを押せ
- ② ◎発報放送中
火 災 →火災放送スイッチ
非火災 →非火災放送スイッチ
マイク放送→非常マイク
- ③ ◎発報放送停止中
火 災 →火災放送スイッチ
非火災 →非火災放送スイッチ
マイク放送→非常マイク
- ④ ◎火災放送中
マイク放送→非常マイク
非火災 →非火災放送スイッチ
- ⑤ ◎非火災放送中
マイク放送→非常マイク
火 災 →火災放送スイッチ
- ⑥ ◎非火災放送停止中
マイク放送→非常マイク
火 災 →火災放送スイッチ
再放送 →非火災放送スイッチ
- ⑦ ◎感知器作動
マイク放送→非常マイク
火 災 →火災放送スイッチ
非火災 →非常復旧スイッチ

業務放送のしかた

初めてご使用になる時はプリアンプパネル PP-025C を以下のように設定してください。

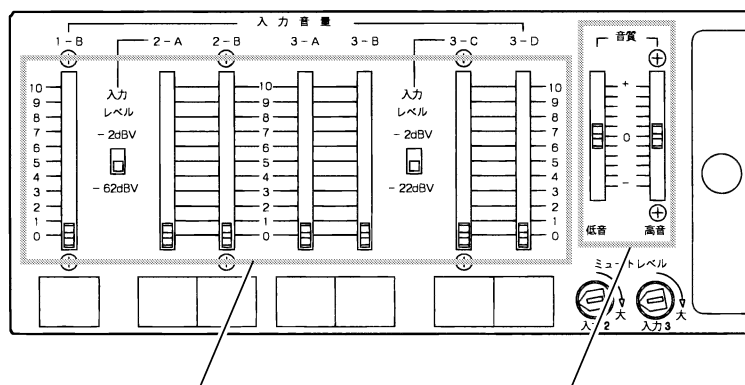
プリアンプパネル前面部左側



マイク入力音量調節器

反時計方向いっぱいまで回しておきます。

プリアンプパネル前面部カバー内部



入力音量調節器

すべての入力音量調節器を0の位置（最下位）にしておきます。

音質調節器

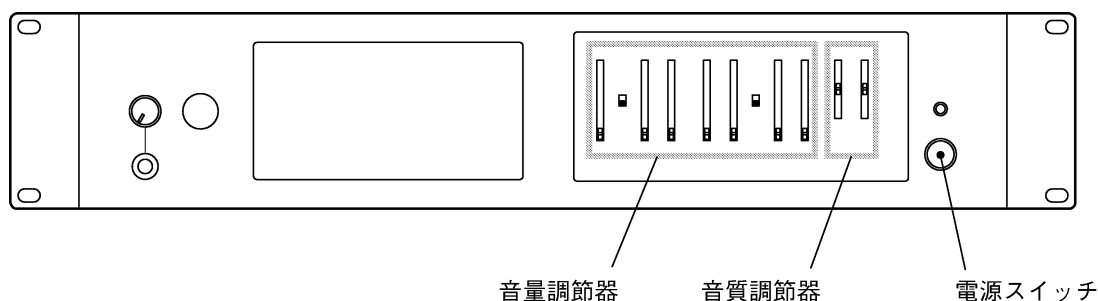
低音、高音の音質調節器を0の位置（中央位置）にしておきます。

ご注意

入力2-A、3-Cの入力レベル切換スイッチおよび、入力スイッチ2、3のミュートレベル調節器は機器設置時にあらかじめ設定／調整されておりますので触れないようにしてください。
機器設置時に設定／調整されていなかった場合や再設定／再調整の必要がある場合は PP-025C 取扱説明書をご覧ください。

共通の操作

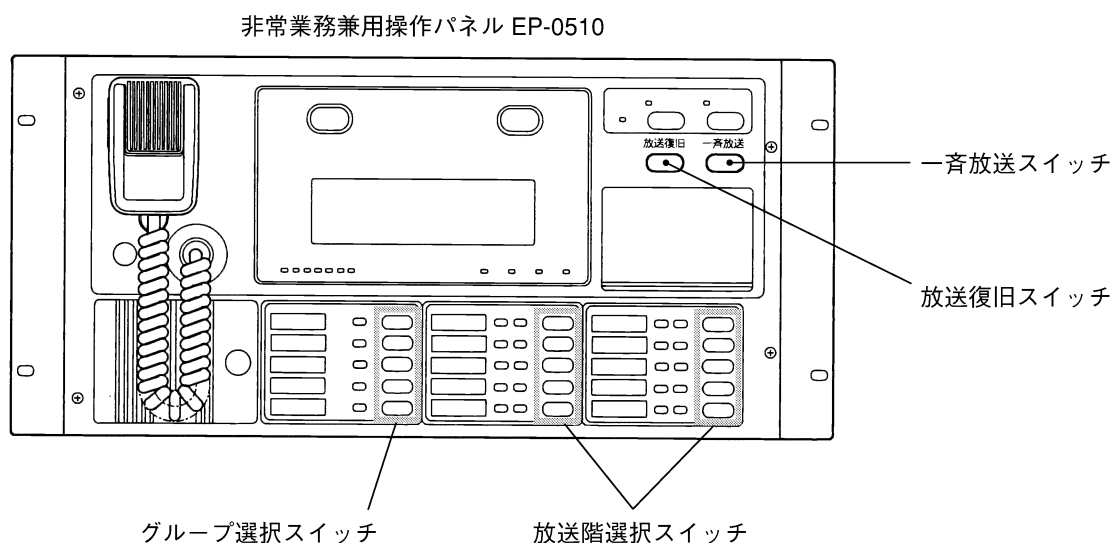
プリアンプパネル PP-025C



1. 電源を投入します。

PP-025C の電源スイッチを押します。()

2. 放送場所を選択します。



非常業務兼用操作パネルEP-0510 または増設操作パネルEP-029 で、放送場所を選択します。

- 一斉放送 : 一斉放送スイッチを押します。
- グループ放送 : グループ選択スイッチを押します。
- 個別放送 : 放送階選択スイッチを押します。

3. プリアンプパネルPP-025Cで音量/音質の調節をします。

- 放送するプログラムの音量調節器のツマミを適当な音量の位置まで上げます。
- 音質調節器のツマミを動かし、適当な音質に調節します。
(適当な位置が定まったら印をつけておくと便利です。)
- 調節後は、誤ってツマミなどに手が触れぬようカバーを取り付けておいてください。

4. 放送終了後、放送場所の解除をします。

- EP-0510の放送復旧スイッチを押します。
- グループ放送、個別放送の場合は選択スイッチを再度押すことによって解除することができます。

5. 電源を切ります。

PP-025Cの電源スイッチを押します。(■)

ご注意

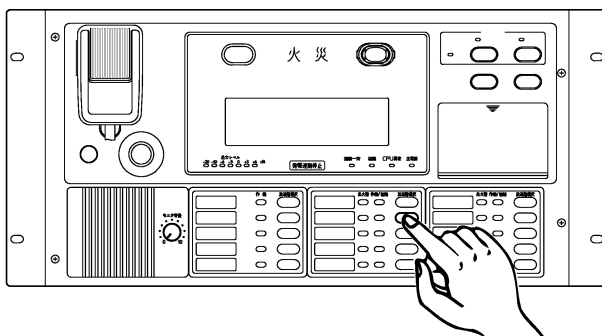
業務放送する場合、EP-0510 または EP-029 で放送場所を選択することにより、プリアンプの電源が投入されていなくても自動的にプリアンプおよびパワーアンプに電源が投入され、放送可能な状態となります。しかし、この手段での操作の場合、放送場所を選択したのち電源「ON」のときのノイズ防止のため、放送可能になるまで約1秒間要します。

急いで放送したい場合、放送内容の頭切れをおこす可能性があるため業務放送時には、まずプリアンプパネルの電源投入をしていただくようおすすめいたします。

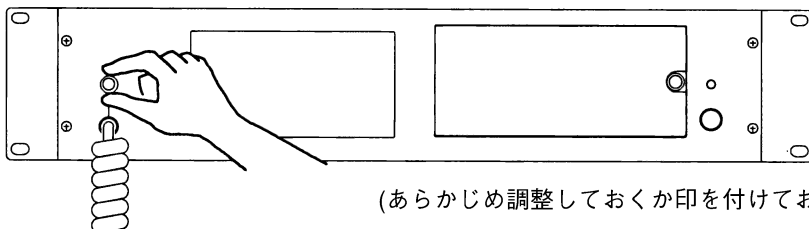
■ マイクロホンによる案内放送

操 作

1. 放送場所を選択する。



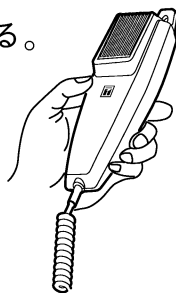
2. 音量を上げる。



(あらかじめ調整しておくか印を付けておく)



3. マイクロホンで放送する。



4. 放送終了後、音量を下げて、放送場所を解除する。

■ 業務グループ放送について

グループ放送は、異なる階でも必要な場所をひとまとめにして、同一放送をすることができます。たとえば、お客様、従業員など系統別にそれぞれのグループ選択スイッチに記憶させておけば、ワンタッチで必要な場所へ放送ができます。記憶のしかたは別冊「設置要領（書き込み編）」をご覧ください。

本放送設備の業務グループは次のとおりです。

1. 本体グループ放送

本体のグループ選択スイッチにより行います。グループ専用スイッチは5局ありますが、これで不足する場合は、個別の放送階選択スイッチもグループスイッチとして設定することができます。

放送のしかた

- グループ放送をするとき : グループ選択スイッチを押します。
- グループ放送を終わるとき : 同じグループ放送スイッチを再度押すか、または放送復旧スイッチを押します。
- 2つのグループに同一放送をしたいとき : 放送したい場所のグループ選択スイッチを2つ押します。
- グループ放送に階別放送を追加したいとき : グループ選択スイッチを押した後、必要な階別選択スイッチを押します。

2. 本体緊急グループ放送

緊急グループの書き込みを行なった本体のグループ選択スイッチにより行ないます。グループ作動表示灯の点灯とともに業務緊急表示がLCDパネル上に出ます。

この放送では、スピーカの音量調節器（アッテネータ）が絞ってあっても最大音量で放送ができ、緊急連絡放送に用いられます。操作方法是「1. 本体グループ放送」と同じです。

3. 非常業務兼用遠隔操作器（非常リモコン）グループ放送

非常リモコンからのグループ放送です。非常リモコンのグループ放送スイッチは本体と同一箇所になります。操作方法も同一です。

4. 非常リモコン緊急グループ放送

非常リモコンからの緊急グループ放送です。非常リモコンのグループ放送スイッチは本体と同一箇所になります。操作方法も同一です。

5. 業務リモコングループ放送

業務リモコンからのグループ放送です。本体とは別のグループを設定することができます。操作方法是業務リモコンの取扱説明書をご覧ください。

6. 業務リモコン緊急グループ放送

業務リモコンからの緊急グループ放送です。本体とは別の緊急グループを設定することができます。

7. タイマ（緊急）グループ放送

メロディクスを接続してタイマにより起動すると、特定の場所にこれらの放送をすることができます。なお、緊急グループに設定することもできます。

8. 音声ファイル（緊急）グループ放送

音声ファイルを接続してタイマにより起動すると、特定の場所に放送することができます。なお、緊急グループに設定することもできます。

■ 本体 BGM 放送について

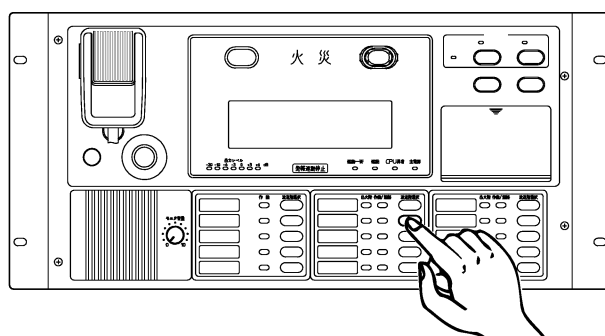
ビジー制御出力端子を持たない演奏機器からでも BGM 放送ができる本体 BGM 放送機能を内蔵しています。非常業務兼用操作パネル EP-0510 での書き込みで、グループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチの用途を「BGM」に設定します。

EP-0510 および非常リモコンで、「BGM」に設定されたグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押すことにより本体 BGM 放送ができます。

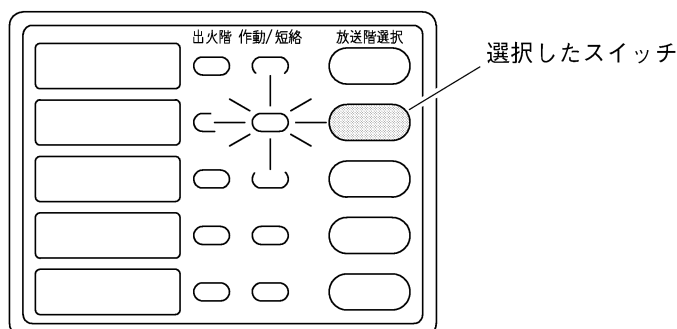
設定のしかたは、別冊「設置要領（書き込み編）」をご覧ください。

● 本体 BGM 放送のしかた

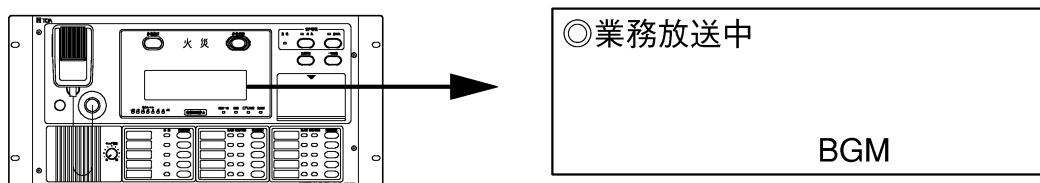
1. 「BGM」に設定されている本体のグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押します。



2. 押したスイッチの作動表示灯が点灯します。



3. EP-0510 の LCD パネルに「業務放送中 BGM」の表示がでます。

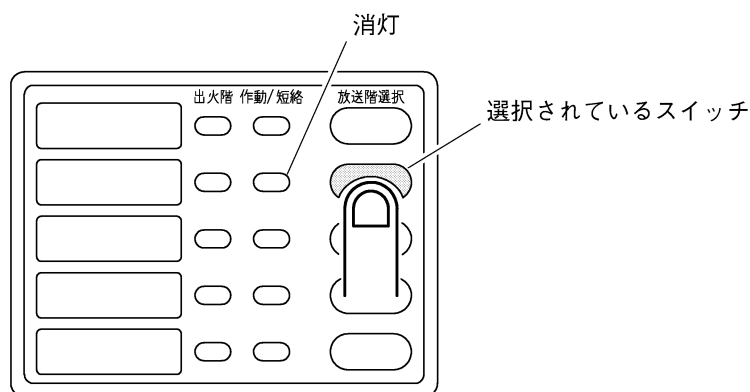


4. BGM 音源機器から本体 BGM 放送ができます。

ご注意

- 本体 BGM 放送は EP-0510 での書き込みによって、放送の優先レベルを設定することができます。別冊「設置要領（書き込み編）」をご覧ください。
- 本体 BGM 放送よりも優先レベルの高い放送をしているときは、「BGM」に設定されたグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押しても BGM 放送はできません。

5. 本体BGM放送を終了するときは、選択されているグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押して、作動表示灯が消灯することを確認します。(LCD上の表示も消えます。)



● ご注意

本体の放送復旧スイッチを押しても、本体BGM放送は中断せず継続します。

● 非常業務兼用遠隔操作器（非常リモコン）からの本体BGM放送のしかた

非常業務兼用遠隔操作器（非常リモコン）からも本体BGM放送ができます。

非常業務兼用操作パネルEP-0510での書き込みで、「BGM」に設定されたグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押して、本体BGM放送をします。

操作方法は「本体BGM放送のしかた」と同じです。

● 本体BGM放送を行うことができる機器

EP-0510の内部スイッチの切り換えにより、本体または非常リモコンのどちらから本体BGM放送を行うかを設定することができます。

出荷状態では本体と非常リモコンの両方から本体BGM放送ができます。

設定できる内容と設定のしかたは、別冊「設置要領（工事・基本編）」の「非常業務兼用操作パネルEP-0510の設定」をご覧ください。

● ご注意

本体BGM放送機器として設定されていないときは、「BGM」で設定されているグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押しても選択できません。

■ 業務一斉放送について

業務一斉放送は、設置して最初に電源を投入し、初期化した状態では、「通常一斉放送」に設定されています。一斉放送で、スピーカの音量調節器を絞っていても放送することができる「業務緊急一斉放送」が望ましい場合は、「書き込み」により設定変更をすることもできます。

詳しくは別冊「設置要領（書き込み編）」をご覧ください。

業務停電・緊急放送のしかた

本機は、非常放送用とは別に非常電源パネルを用意しておくことにより、停電時でも蓄電池を電源とする業務放送ができます。

■ ご注意

業務停電・緊急放送をする場合は、停電時の業務放送用に非常電源パネル及び蓄電池を用意しておく必要があります。

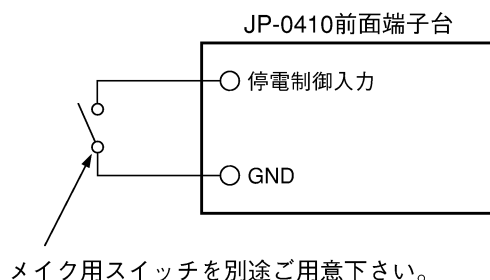
非常放送用の非常電源パネル及び蓄電池を業務停電・緊急放送用に使用することはできません。

■ マイクロホンによる業務停電放送

ジャンクションパネル JP-0410 の停電制御入力と GND 端子をメイクすることにより、電源が入ります。この状態で、業務放送ができます。

放送のしかたは、業務放送と同じです。(P. 31)

また、非常業務兼用操作パネル EP-0510 の非常・業務マイクからの放送もできます。



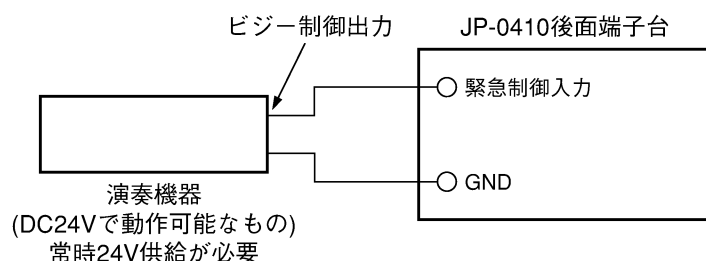
■ 演奏機器による業務停電放送

演奏機器のビジー制御出力端子を緊急制御入力に接続しておくこと、演奏機器を起動させたときに本機の電源が入り、放送ができます。

演奏機器には、DC24V で動作可能であり、ビジー制御出力端子を持つものが必要です。

EP-0510 の緊急入力に接続された入力のみが放送されます。

このときは、必ず緊急放送（R ラインに出力される）になります。



AC 電源通電時に緊急制御入力をメイクしたときは、他の業務放送に優先して、最優先の放送となります。

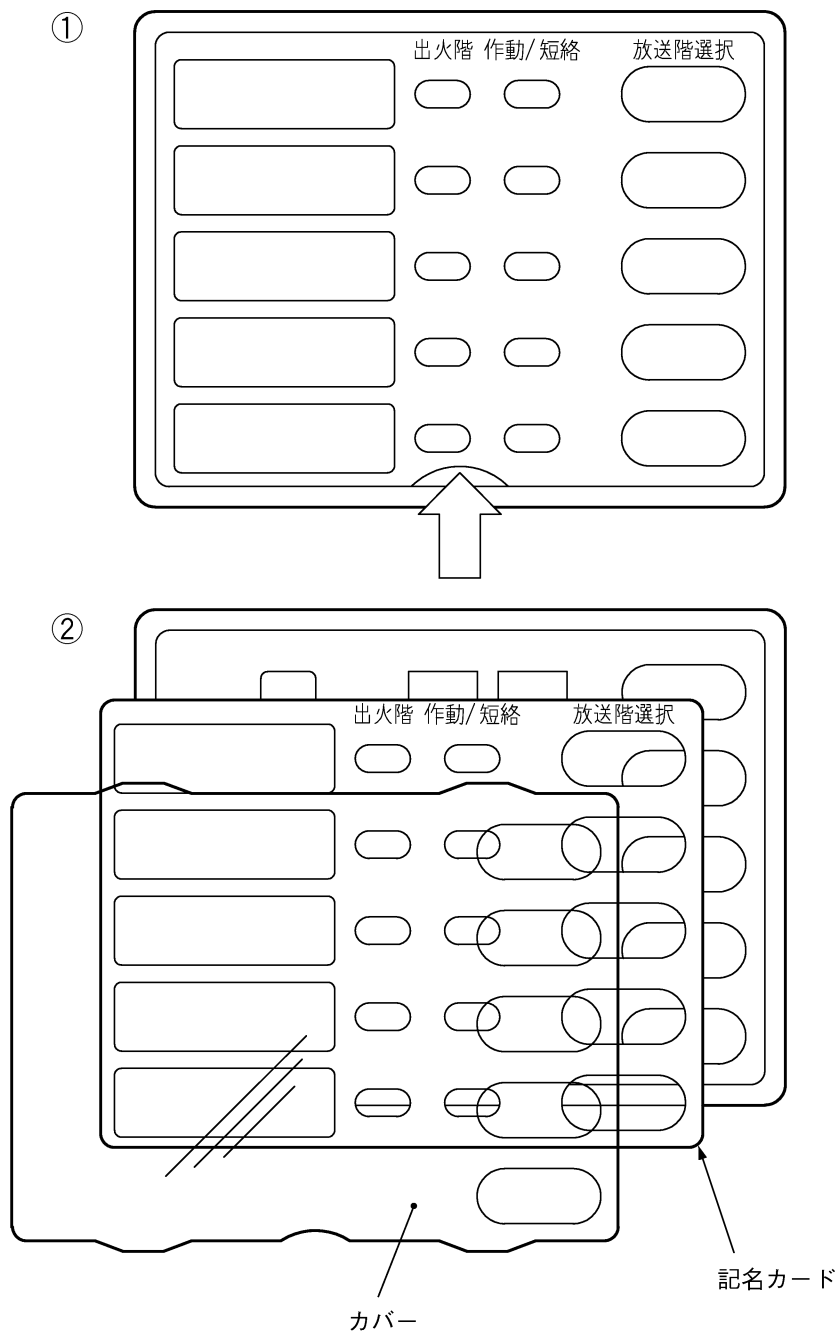
■ 記名カードの使いかた

記名カードは放送階選択スイッチおよびグループ選択スイッチの名称を記入します。

● カバーの外しかた

矢印の部分のカバーの溝にドライバーなどの先の細いものをひっかけてカバーをはずし、記名カードを取り出します。

記入後は、カードとカバーを元のとおりにはめておきます。



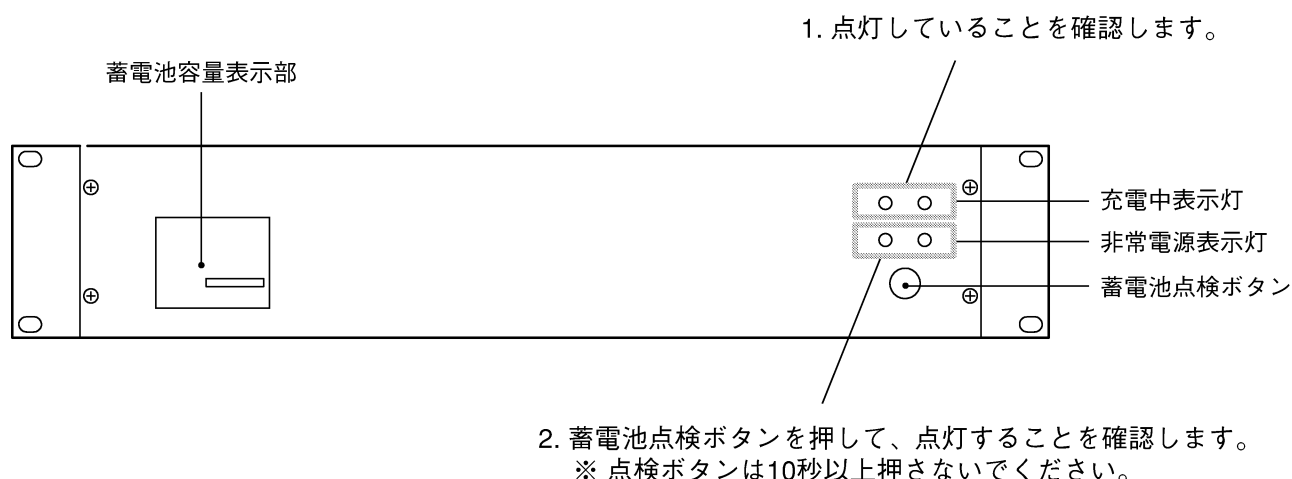
日常点検

■ 手動点検

※ 万一の時に機器が正常に動作するように、日常点検を必ず実施してください。

※ 日常点検は機器の動作の一部のみを点検するものです。必ず定期点検も実施するようにしてください。

● 非常電源パネル DS-029 による電源電圧の確認



1. 充電中表示灯が点灯していることを確認します。

※ 蓄電池が接続されていないと充電中表示灯は点灯しません。

※ 前面に表示されている蓄電池の容量が3.5 Ahまたは、6 Ahの時は、蓄電池の接続は1本のみとなっていますので充電中表示灯の点灯は1つのみとなります。

2. 蓄電池点検ボタンを押し、非常電源表示灯が点灯することを確認します。

※ 蓄電池が接続されていないと非常電源表示灯は点灯しません。

※ 前面に表示されている蓄電池の容量が3.5 Ahまたは、6 Ahの時は、蓄電池の接続は1本のみとなっていますので非常電源表示灯の点灯は1つのみとなります。

※ 点検ボタンは10秒以上押さないでください。

以上の点検で異常が見つかった場合は、ただちに販売店または、保守契約店へご連絡ください。

ご注意

- 蓄電池の寿命は使用条件により異なりますが、約4年となっています。使用開始日または交換日の欄を確認し、4年以上経過している場合は、ただちに蓄電池を交換してください。
- 蓄電池の交換およびリサイクルについては「ニカド電池の交換について」(P. 6)、「ニカド電池のリサイクルについて」(P. 5)をお読みください。

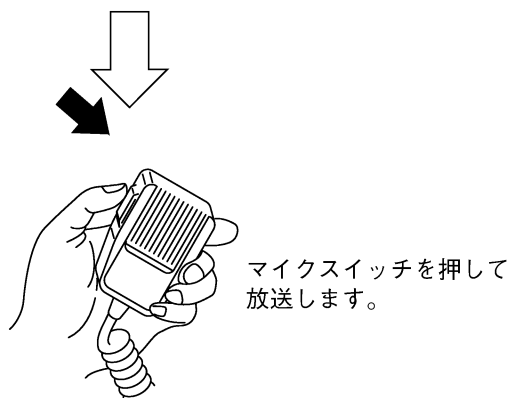
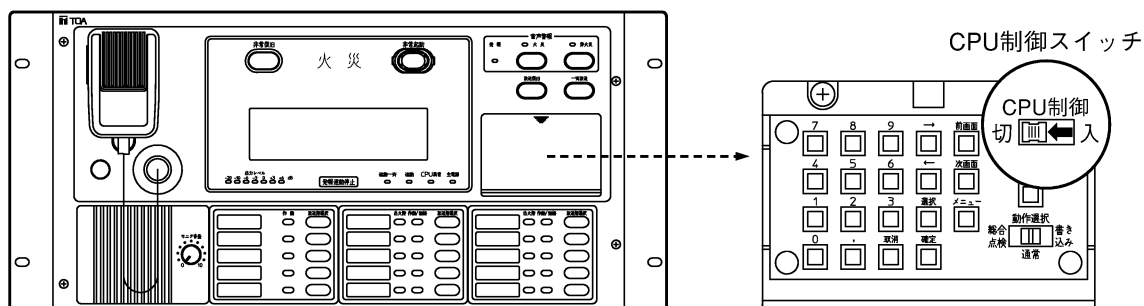
■ 自動点検

本機にはコンピュータによる自動点検機能があります。

異常があったときは非常業務兼用操作パネル EP-0510 の LCD パネルなどにその異常の内容を表示します。

異 常	異常の内容	点検時期	異常検出時の表示
CPU 異常	EP-0510 のコンピュータに異常があります。	常時自動点検	EP-0510 の CPU 異常表示灯が点灯または点滅します。
蓄電池異常	非常電源パネル DS-029 の蓄電池に異常があります。	24 時間ごとに自動点検	◎異常発生中 蓄電池異常
PA 異常	パワーアンプに異常があります。 ※ パワーアンプパネルに故障検出ユニット YA-1000A が組み込んである場合のみ異常表示ができます。	常時自動点検	◎異常発生中 P A 異常
JP0410 異常	EP-0510 とジャンクションパネル JP-0410 間の通信に異常があります。	常時自動点検	◎異常発生中 J P 0 4 1 0 異常
メモリ異常	EP-0510 で書き込みをした内容に異常があります。	常時自動点検	◎異常発生中 メモリー異常
EP029 通信異常	EP-0510 と増設操作パネル EP-029 間の通信に異常があります。	常時自動点検	◎ E P 0 2 9 通信異常 アドレス 異常のある EP-029 のアドレス (0～F) が表示されます。
JP039 通信異常	JP-0410 と増設ジャンクションパネル JP-039 間の通信に異常があります。	常時自動点検	◎ J P 0 3 9 通信異常 アドレス 異常のある JP-039 のアドレス (0～F) が表示されます。
非常リモコン通信異常	本機と非常リモコン EP-059R・RM-976 間の通信に異常があります。	常時自動点検	◎非常リモコン通信異常 アドレス 異常のある非常リモコンのアドレス (0～7) が表示されます。
業務リモコン通信異常	本機と業務リモコン RM-1200 間の通信に異常があります。	常時自動点検	◎業務リモコン通信異常 アドレス 異常のある業務リモコンのアドレス (0～7) が表示されます。
IM011 通信異常	EP-0510 と入力マトリックスパネル IM-011 間の通信に異常があります。	常時自動点検	◎ I M 0 1 1 通信異常 アドレス 異常のある IM-011 のアドレス (0～B) が表示されます。
SP 回線短絡異常	スピーカ回線が短絡しています。	放送中	◎ S P 回路短絡 短絡している回線の番号が表示されます。
非常起動異常	本機内部や本機と非常リモコン間の非常起動ラインに異常があります。	常時自動点検	◎異常発生中 非常起動異常

- 異常表示が出た場合、CPU 制御スイッチを「切」にしておけば非常・業務兼用マイクによる一斉放送が可能です。



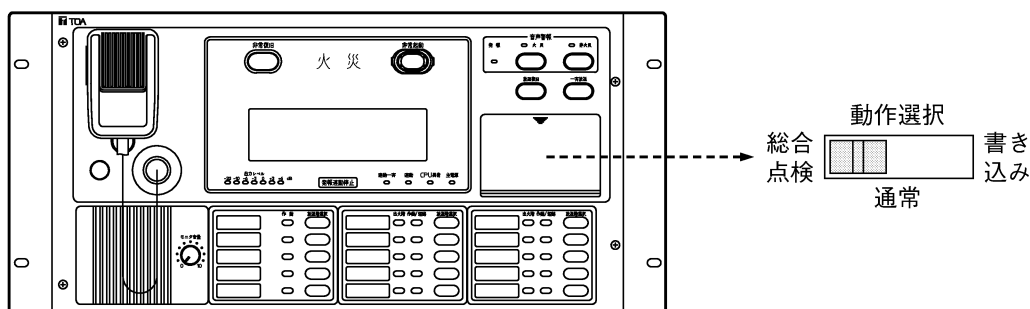
ご注意

- 電源投入時および電源切断時に、CPU 異常表示灯が点灯することがあります。これは、CPU 異常ではなく正常動作です。
- パワーアンプの故障中（PA 異常）およびスピーカ回線の短絡中（SP 回線短絡異常）は、放送されないエリアがあります。非常の際は他の手段による情報伝達が必要となります。
- 異常警告音（ピッピッピ……）を停止したい場合は、放送復旧スイッチを押してください。異常警告音が停止します。このとき、LCD パネルの異常表示は残ります。スピーカ回線に短絡などの異常のある場合は、異常のある回線のみを切り離します。
- 異常表示や異常警告音が出たときは、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

総合点検

非常放送、業務放送、業務停電放送が正しく動作するか点検します。

1. 動作選択スイッチを「総合点検」にします。



2. 総合点検モードを選択します。

←、→キーを押すことにより、総合点検モードが切り換ります。

LCD パネル

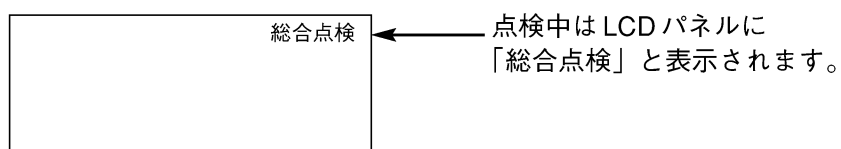
総合点検モード選択

1. **SP回線非常断制御OFF**
2. SP回線OFF
3. 非常断制御OFF

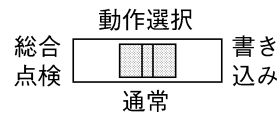
1. SP回線・非常断制御OFF	●スピーカに点検時の音を出力しません。 ●非常放送の点検時に、非常断制御をしません。 (ローカルアンプの放送を中断せずに点検が行えます。)
2. SP回線OFF	●スピーカに点検時の音を出力しません。 ●非常放送の点検時に、非常断制御をします。
3. 非常断制御OFF	●スピーカに点検時の音を出力します。 ●非常放送の点検時に、非常断制御をしません。 (ローカルアンプの放送を中断せずに点検が行えます。)

3. 確定スイッチを押します。

4. 非常放送、業務放送、業務停電・緊急放送を行い、放送内容や表示灯の点灯などを確認します。



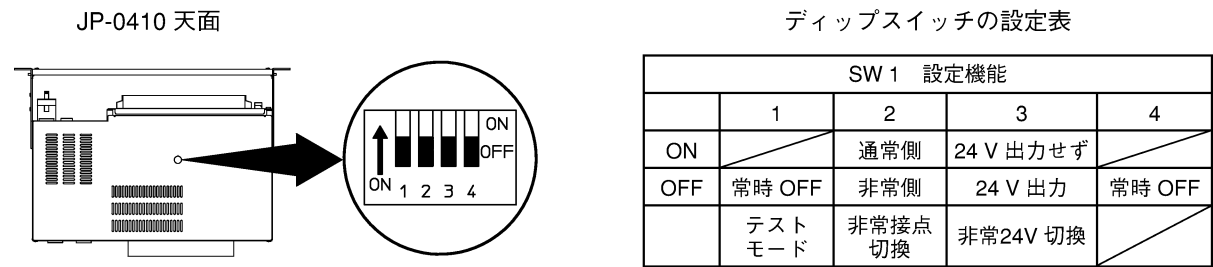
5. 点検を終了し通常動作にするときは、動作選択スイッチを「通常」にします。



※ 「総合点検モード」の状態では非常放送を行った場合、以下の出力は通常の非常放送と同じように制御されます。

- ・非常接点：非常放送開始にともない、接点が非常側になります。
- ・非常 24 V：非常放送開始にともない、24 V が出力されます。

上記の設定は、ジャンクションパネル JP-0410 天面のディップスイッチ（SW 1）により、変更できます。



なお、「通常モード」での非常放送中は SW 1 の設定に関わらず、「非常接点は非常側」、「非常 24 V は 24 V 出力」となります。

ご注意

総合点検終了後は、「動作選択スイッチ」を忘れずに「通常」にしておいてください。
総合点検のままにしておきますと、非常時でも操作パネル上での見かけ上の操作はできますが、実際には各階のスピーカから音が出ないという状態になります。



TOA インフォメーションセンター	フリーダイヤル（無料電話） TEL. 0120 - 108 - 117
商品や技術など、お問い合わせにお応えします。 受付時間 9:00 ~ 17:00（日曜・祝日除く）	〒665-0043 宝塚市高松町2番1号 TEL. (0797) 72-7567 FAX. (0797) 72-1090

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。